

C3  
2811  
10

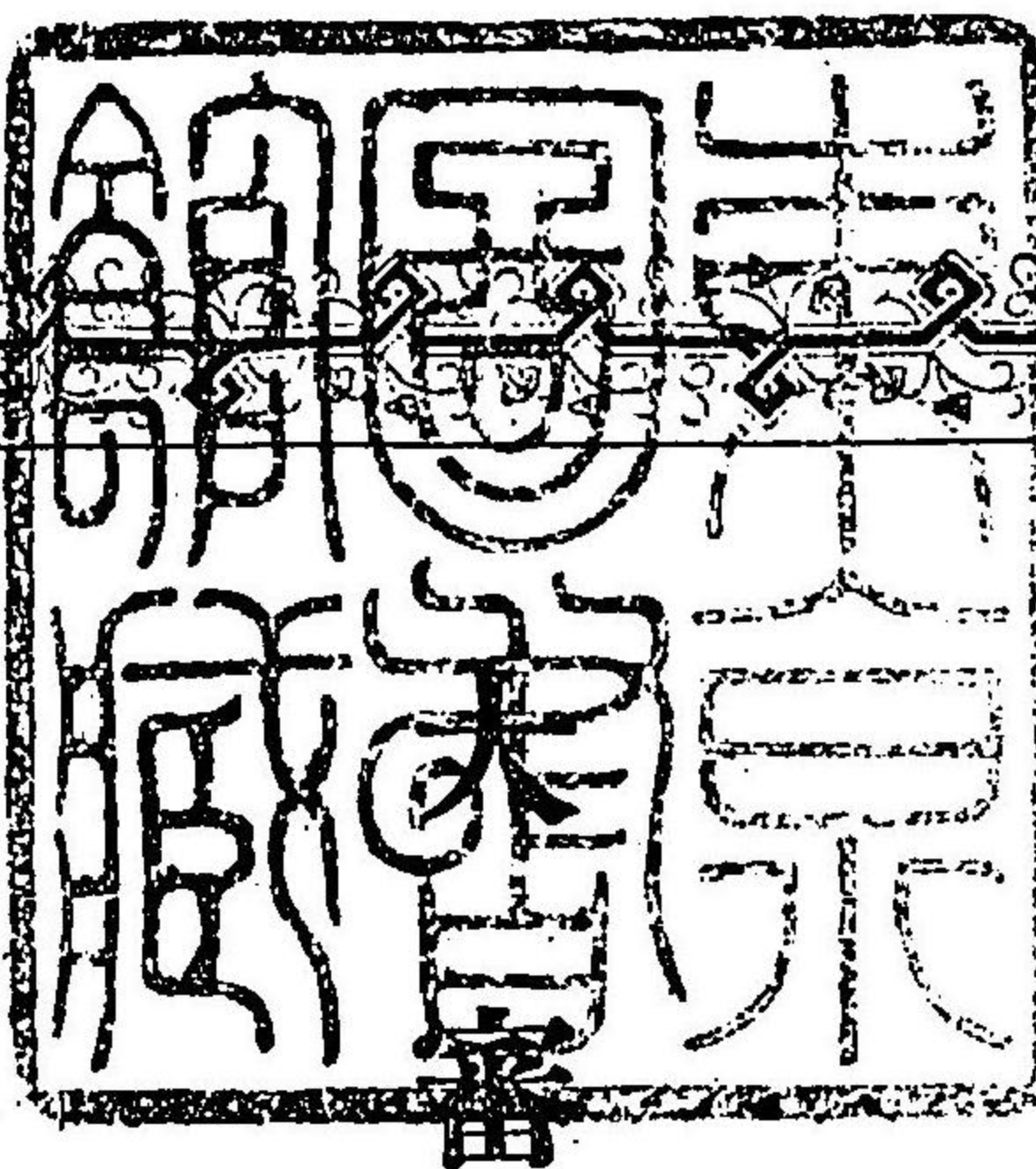
明  
治  
十  
八  
年

大  
審  
院

民  
事  
商  
事

判  
決  
錄

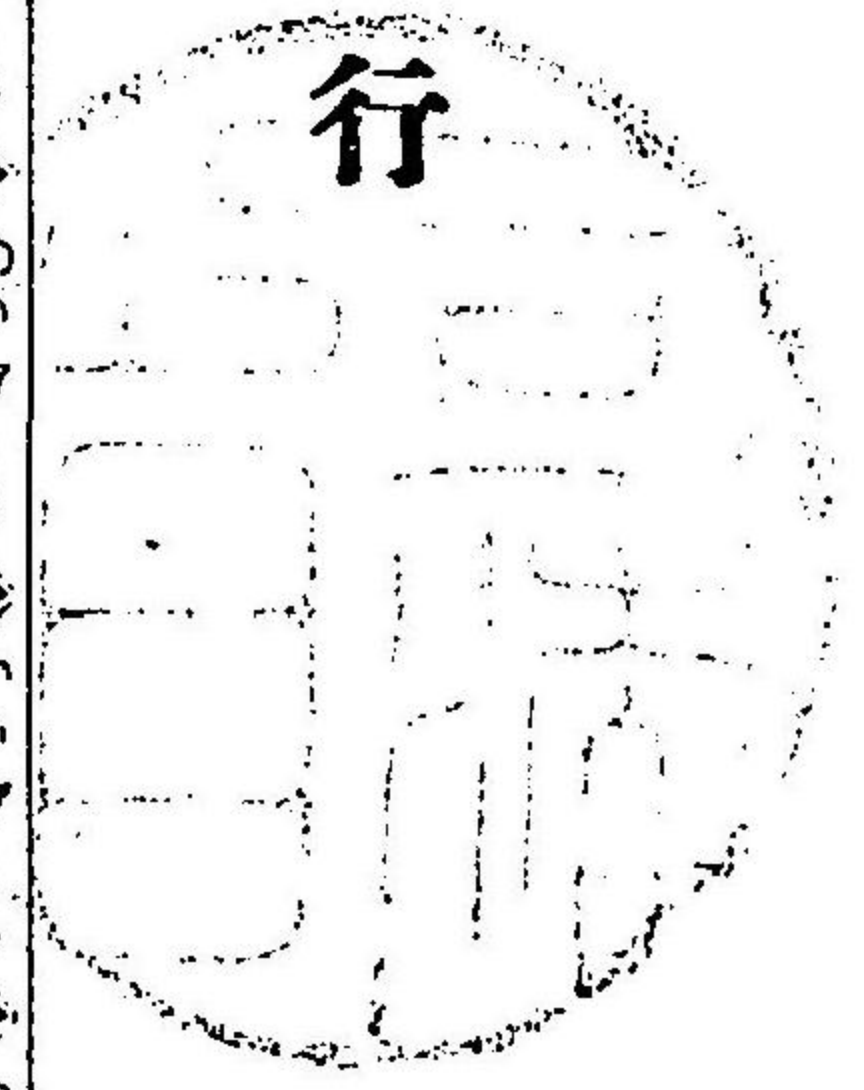
11965



司法部藏版 版權所有

院 民事 商事 判決錄

明治二十一年七月印行





CZ  
2811  
~~2811~~  
10

大審院判決集録

### 凡 例

- 一 従前大審院判決録ハ該院ノ判決ニ係ル事件ヲ細大遺スヲナク悉皆集録シタルモノナリシモ其據ル處ノ證憑辯論及ヒ事件ノ顛末等ハ曾テ之ヲ舉示セス單ニ全判文ヲ掲クルニ止マリシヲ以テ其趣意或ハ分明ナラサルノ憾ナキ能ハサリシニ因リ茲ニ明治十八年ヲ以テ其方法體裁ヲ改正シ本書ハ該年度ニ與ヘタル民事判決中ヨリ特ニ後來ノ判例模範トナルヘキモノ、ミチ撰拔シ其解釋ニ須要ナル證憑等ヲ添附シテ之ヲ民事ト商事トニ區別シ編纂シタルモノナリ
- 一 商事判決録ハ別ニ一卷ト爲スノ目的ナリシモ件數僅少ニシテ別冊ト爲スノ必要ナキノミナラス之ヲ別ツトキハ却テ讀者ノ繙閱ニ便ナラサルヲ以テ合シテ一卷ト爲シ商事ヲ卷ノ後ニ措ク
- 一 訴件ハ訴名ニ依テ類別ス毎件ノ初頭ニ掲クル訴名ノ下ニ何年何號ト割註アルハ大審院カ之ヲ受理シタル年次及ヒ號數ナリ



一 證據書類ハ概シテ大審院カ其辯明中ニ援引説明スルモノニシテ事  
 件ノ頗末兩造ノ辯論及ヒ其判決ノ主旨ヲ解釋スルニ必要トスルモ  
 ノ、外之ヲ掲ケヌ又辯明中ニ援引スルモノト雖モ其全部若クハ幾  
 部ヲ要用ナラスト認ムルトキハ唯其番號ノミヲ掲ケ其大意ヲ附記  
 シ或ハ其幾部ヲ掲ク  
 一 證據書類中人名地名金額石數反別及ヒ文詞等ノ緊要ナラサルモノ  
 ハ渾テ「某」若干「云々」等ノ文字ニ換ヘテ之ヲ節畧ス

明治二十一年六月

明治十八年大審院民事判決錄

目 録

一 畑地所有權并地券面切換差拒ノ件	(裁判管轄ニ關ス)	明治十七年 第四百九拾壹號	一
一 地所賣買契約履行請求ノ件	(被上告人欠席及未丁年者ニ關ス)	明治十七年 第三百拾三號	一一
一 公債證書取戻ノ件	(不完全ノ委任狀ニ關ス)	明治十七年 第四百二十三號	一七
一 下付金拒障解除ノ件	(身代限揭示後ニ得タル財産ニ關ス)	明治十七年 第三百六號	二八
一 預金取戻ノ件	(銀行條例ニ關ス)	明治十七年 第三百六拾壹號	三一
一 貸金催促ノ件	(頼母子講ノ爭論ニ關ス)	明治十六年 第六百二十九號	三九
一 貸金催促ノ件	(請求外ニ立入り又ハ爭點ヲ判決セザリシニ關ス)	明治十七年 第七拾六號	四七
一 貸金催促ノ件	(證券印紙犯則ニ關ス)	明治十七年 第三百號	五三
一 營業毀損回復ノ件	(新聞論說ニ關ス)	明治十六年 第六百六拾六號	五八

丁 數







耕地壹畝步

代價拾五錢六厘

右云々

明治六年五月九日

上告第四號

持主 上告人

三

山口縣權令 某印  
檢査人中屬 某印

地所番號境界等件ニ付伺

云々御役場備置之繪圖面ト御照査ノ上地押境界持主番號等相違無  
之候哉否萬々乍御手數何分ノ御指令被成下度云々

明治十七年七月七日

上告人印

戶長 宛

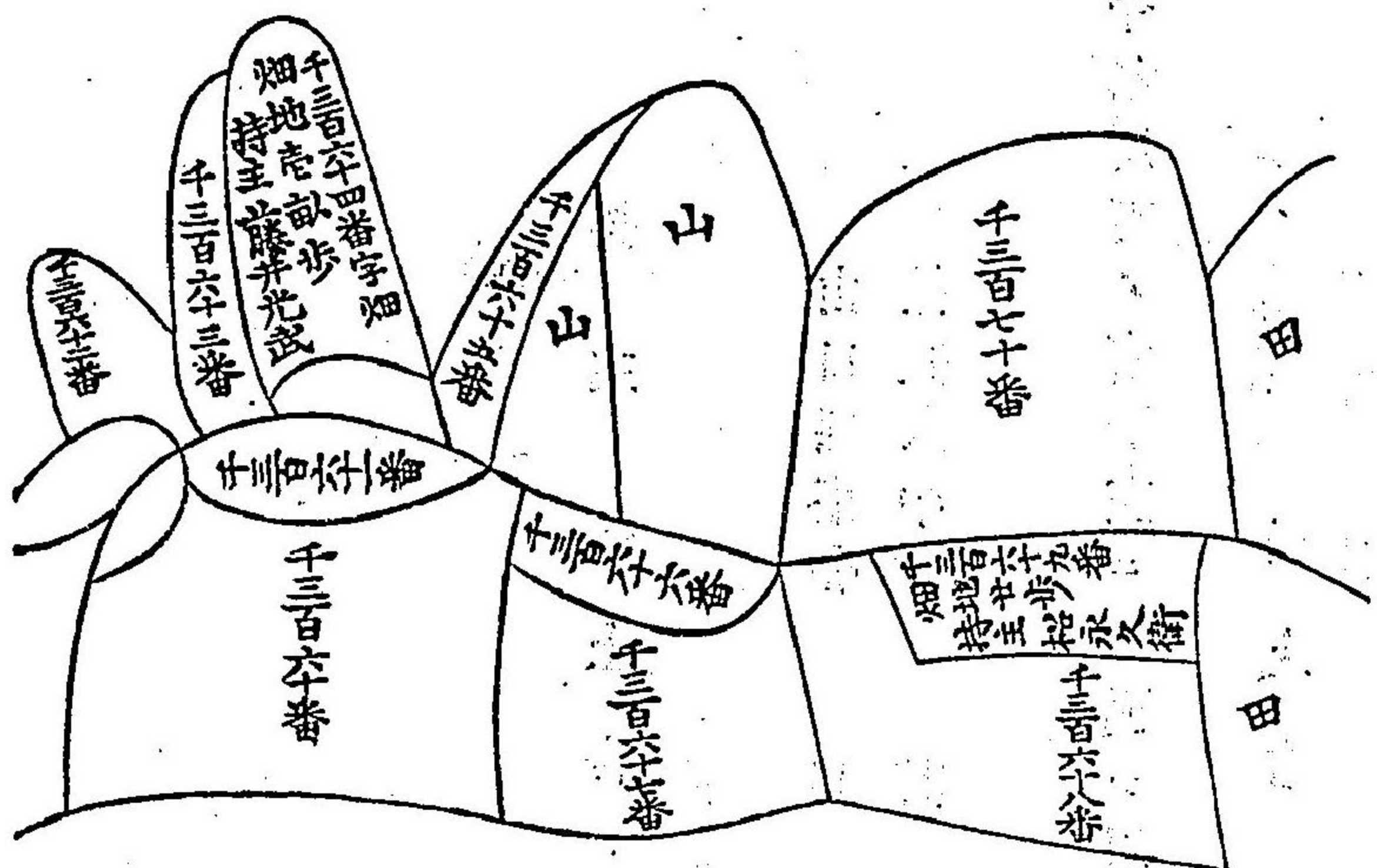
書面伺之趣圖面之通相違無之候事

戶長代理

明治十七年七月七日

用掛 某印

# 改正地押圖画



三







以上ヲ被上告人ノ證據書類トス

本件ハ初審ヲ經スシテ直ニ終審ノ裁判ヲ受ケタルモノニテ起訴者タル被上告人原審要求ノ旨主ハ上告人被告カ所有スル上告第二號證ノ地券面一畝歩トアル第千三百六十四番ノ地所ハ其實被上告人ノ先代カ當時ノ領主ヨリ受領セシ字九郎次郎ト稱スル公稅免除ノ地壹畝廿歩ノ地所全部ヲ包括スルモノナリ而テ其壹畝歩ハ被上告人ノ先代カ文化年中上告人ノ先代ニ賣渡セシモノナルモ其殘廿歩ニ對シテ被上告第四號以下數證此數證ハ被上告人ノ先代カ寶曆年度ニ於テ字九郎次郎ト稱スル地壹畝廿歩ノ免稅地ヲ有セシト井ニ文化年度以降連綿其内ノ廿歩ニ對シ免稅ヲ受ケシトナリ被上告人カ戸長役場ノ公簿ニ付寫出シタル寶曆文化以降ノ坪付帳ニハ春定ノ下札等ト題セシモノナリ然レモ爰ノ如ク被上告ノ先代カ連綿公稅ノ免除ヲ受ケ所有シ來リシモノニテ被上告第一號證千三百六拾九番トアル地券ハ即チ被上告第三號證繪圖面ノ如ク此貳拾歩ニ相當スルモノナリトテ地券書換願書ニ被上告人ノ連印ヲ求ムルモノナ

ルモ上告人ニ於テハ被上告第一號證ノ地券ハ上告第四號證改正地押繪圖面ノ如ク別ニ地盤ノ存スルアリテ上告第三號證ノ地所中ニ包含スルモノニ非サレハ其請求ニ應シ難キ旨ヲ抗辯シタリ終審裁判所ハ本訴ハ被上告人ノ先代カ文化年中上告人ノ先代ニ賣渡セシ畑地壹畝歩ハ改正地押繪圖面第千三百六拾四番ノ地所全面ヲ賣渡セシモノナルヤ否ヤヲ判定スルニ在リトシ被上告第一號證ノ地券ハ上告第二號證ノ地券并ニ改正地押繪圖面ニ參照スレハ明治六年改正之際第千三百六拾九番ノ地所ニ充テ下付シ上告第二號證ノ地券ハ第千三百六拾四番ノ地所全面即チ論地ヲ併セ壹畝歩トシ下付シタルモノナルトハ明瞭ナレモ被上告人ノ先代カ字九郎次郎壹畝貳拾歩ノ内貳拾歩ニ對シ公稅ノ免除ヲ受ケタルトハ被上告第四號以下ノ數證ニ依リ明カナレハ改正繪圖面第千三百六拾四番ノ地所即チ被上告人ノ云フ字九郎次郎壹畝貳拾歩ノ内貳拾歩ヲ除キ壹畝歩ヲ賣渡セシモノニシテ改



正繪圖面第千三百六拾四番ノ全地ニ充テ上告第貳號證ノ地券ヲ下付シタルハ錯誤ニ出タルモノト判定シ上告人ハ速ニ論所貳拾歩ニ相當ナル地所ヲ被上告人ニ引渡ス可シト裁判シタリ依テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ原裁判所ハ上告人カ買受ケタル壹畝歩ノ地ハ舊ト被上告人カ所有セシ壹畝貳拾歩ノ内ナルコトヲ辯明セシモ其壹畝貳拾歩ハ果シテ何レノ方位ニアリシヤ其位置ヲモ示サズシテ漫然上告人カ其第二號證ノ地券ヲ改正繪圖面第千三百六拾四番ノ全地ニ得タルヲ錯誤ナリト判定セシハ不法ナリ又被上告第一號證ノ地券ハ其判文ノ始ニ於テ改正繪圖面第千三百六拾九番ノ地所ニ充テタルモノトシナカラ其終リニ於テ第千三百六拾四番ノ内ヨリ貳拾歩ニ相當ナル地所ヲ引渡ス可シト裁判シタルハ前後矛盾セル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ而シテ被上告人ハ原裁判ノ不當ナラサル旨ヲ辯護シ且ツ原裁判ハ初審ノ裁判ニシテ未タ終審ノ裁判ヲ經シモノナラヌニ止

告人カ直ニ之ヲ上告セシハ控訴上告手續第十一條及第十四條ニ違反スルヲ以テ本上告ハ棄却セラレシコトヲ乞フタリ爰ニ於テ大審院ハ豫審并ニ本案ノ辯明ヲ與ヘ原裁判ヲ不當ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ其理由ニ曰ク第一條ニ被上告者ニ於テ本上告ハ控訴上告手續第十一條及第十四條ニ違反スルヲ以テ上告ノ成立ツ可キモノニ非サル旨申立ルト雖モ原書類中原被双方連署ノ上申書ニ曰ク今回被告者<sup>上告</sup>代官人小田寅亮ヘ相掛ル畑地所有權并ニ地券切換差拒ノ件ニ付テハ岩國治安廳ヘ出願可仕様ノ處所有ノ争ニ掛ルヲ以テ本廳ヘ出訴仕度此段被告同於テ異議無之ニ付連署ヲ以テ御受申上候也トアリ之ニ據テ見レハ本件論地ハ其價額百圓以下ナルニ付所轄治安裁判所ノ始審裁判ヲ受クルヲ當然トスレモ土地所有上ノ争ヒナルヲ以テ直ニ原裁判所ノ終審裁判アラシクテ請願セシモノト推測シ得可ケレハ原裁判所ハ本件論地ノ價額上ニ於テ終審權ヲ有スルコト勿論ナルヲ以テ其双方承



諾上ノ請願ヲ採用シテ終審裁判ノ言渡ヲ爲シタルモノト認定ス左ス  
 レハ本上告ハ控訴上告手續第十一條同第十四條ヲ以テ論スヘキ限ニ  
 アラサレハ被上告者ノ申立ハ採用シ難シトス  
 第二條ニ上告第一二條ノ論旨ヲ審案スルニ原裁判ハ被上告第四號以  
 下ノ數證ニ據リ舊字九郎二郎島壹畝貳拾歩ハ即チ上告第二號證地券  
 狀壹畝歩ノ全地ニ相當スルトノ旨趣ナレハ其位置ニ於ルモ改正地押  
 書圖ノ千三百六拾四番ニ相當スルコト亦論ヲ俟タサレハ上告第二號  
 證壹畝歩ノ地券狀カ改正地押書圖千三百六拾四番ノ全地ニ充テ下附  
 セラレタルハ錯誤ニシテ其全地中ニハ被上告第一號證地券狀ノ廿歩  
 モ亦包含スルモノナルキハ右被上告第一號證廿歩ノ地券狀カ改正  
 地押書圖千三百六拾九番ノ地所ニ充テ下附セラレタルモ亦錯誤ニ  
 出タルモノナルヘシ果シテ然ラハ右千三百六拾九番ノ地所ニ充テ被  
 上告第一號證地券狀ノ下附セラレタル登時ノ事實ハ被上告者カ其第

三號證ニ依リ論辯スル如ク改正地押書圖ノ杜撰ナルニ職由スルモノ  
 ナルヤ否ヤニ至テハ原判文中何等ノ説明モナク宛モ被上告者ハ一葉  
 ノ地券ニシテ二個ノ土地ヲ所有スルモノ、如ク判旨ノ齟齬ヲ免カレ  
 サル不備ノ裁判ナリトス

○地所賣買契約履行請求之件明治十七年 第三百拾三號

愛知縣尾張國名古屋區小舟町壹丁目三番地平民早川近三郎代下  
 村四ヨリ三重縣伊勢國員辨郡上笠田村平民富永トミエニ係ル

初審 安濃津始審裁判所

終審 名古屋控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ  
 上告第一號

地所賣渡約定證

字畝步地價

持主 富永正 教人被上告



此賣渡代金若干圓

右ハ拙者所有地今般云々貴殿へ賣渡シノ約定ヲ爲シ則チ賣渡代金  
保證人立會正ニ受取候處實正也然ル上ハ來ル明治十六年四月廿日  
限リ該地戸長ノ公證ヲ受タル賣渡證券及地券及名義附替願書并ニ  
該地小作人各自ヨリ貴殿へ宛タル小作證券其他該村一筆限リノ惣  
全圖整調シ相添速ニ御渡可申候云々

明治十五年十一月廿六日 賣主 富永正教 印

保證人 二 名 印

上告人 宛

前書之通見留置候事

戸長 某 印

上告第三號

御 請

一明治十五年月日抵當若干圓證

但某宛ノ分公證  
一同年十一月廿六日賣渡約定證若干圓分

但上告人宛ノ分同上

右ニ關スル地所私へ讓請仕候上ハ右公證ノ分ハ私ニ於テ負擔可仕

且右兩證トモ本月十五日限リ私名義ヲ以テ右兩人へ宛タル證書ニ

認換へ可仕云々

明治十六年一月廿七日 被上告人 印

證人 某 印

戸長 某 宛

本件ハ上告人終審原告ニ於テ明治十五年十一月中被上告人終審被告

ノ兄富永正教ヨリ上告第一號證ノ契約ヲ以テ本訴ノ地所ヲ買受テシ

ニ其後同年十二月十四日正教ハ退隱シテ嗣子正光其家督ヲ相續シ該



地所モ正光ノ名義ニ切換タルニ翌十六年一月中正光ハ復タ之ヲ被  
 上告人ニ讓與シ被上告人ハ上告第二號證ノ請書ヲ戸長ニ差入レ該地  
 所ヲ讓受ケタリ因テ上告人ハ被上告人ニ係リ該契約ノ履行ヲ請求ス  
 ルモノナルモ被上告人ニ於テハ正教カ退隱シテ其財産ヲ正光ニ相續  
 セシメタルハ十五年十一月十四日コシテ該契約ノ成立チシハ全月廿  
 六日ナレハ戸主タル正光ノ承諾ナキ以上ハ該契約ハ其効力ヲ有セサ  
 ル者ナリ又該二號證ハ不正ノモノナルノミナラス被上告人ハ未丁年者  
 ニシテ契約ヲ成スヘキ能力ヲ有セサルモノナレハ假令該證書ノ印章カ  
 被上告人ノ實印ナルコモセヨ効力ナキモノナリト云フコアリ初審裁判  
 所ハ正教カ其子正光ニ其家督ヲ讓渡シタルハ明治十五年十二月十四  
 日ナルコト正光カ戸籍ノ謄本ニ依リ明カナレハ上告第一號證ノ契約ハ  
 正教ノ退隱以前ニ成立チシモノナルコト付キ正光ニ對スルモ有効ノ契  
 約ニシテ上告第二號證ニ依レハ被上告人ハ其義務ヲ認諾シタル上論

地ヲ讓受ケタル者ト謂ハサルヲ得ストテ上告第二號證ヲ以テ正當有  
 効ノモノト判定シ被上告人ハ上告第一號證ノ契約ヲ履行スヘキ義務  
 アル者ト裁判シタリ終審裁判所ハ之ニ反シ上告第一號證ノ文詞ニ依  
 ルキハ論地賣買證券ニ戸長ノ公證ヲ受ケ之ヲ授受スヘキ期限ハ明治  
 十六年四月廿日ノ契約ナレハ該二號證ニ戸長ノ與書アルモ之ヲ以テ  
 公正ノ證書ト云フヲ得ス況ンヤ其與書ハ普通ノ與書ト異ナルヲヤ而  
 シテ其第二號證ノ如キハ被上告人ノ認メサルモノナルノミナラズ良  
 シ認知セシ者トスルモ個々未丁年者ノ契約ニシテ其未丁年者ノ爲メ  
 ニ頗ル不利益ナル契約ナレハ効力無キモノナリトテ被上告人カ其名  
 下ノ印影ヲ實印ナリト自白スルコトモ拘ハラス上告人ノ敗訴トナシタ  
 ルヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ爰ニ於テ大審院ハ被上  
 告人ノ後見人某<sup>被上告人ハ初終審共後見人某ノ名義ヲ以テ裁判ヲ受</sup>  
 上告<sup>被上告人ハ初終審共後見人某ノ名義ヲ以テ裁判ヲ受</sup>ニ宛テ召喚狀ヲ發シタルニ再度ニ及テ某ハ既ニ後見人ヲ解キ



タル旨申立タリ依テ更ニ被上告人ニ宛テ之ヲ發シタルニ何等ノ申立  
 モ無ク答辯ノ權利ヲ拋棄シタルニ付該院ハ欠席ノ儘判決ヲ與ヘ原裁  
 判ヲ破毀シタリ  
 其理由ニ曰ク本案上告ノ旨趣ヲ以テ原裁判ヲ照查スルニ上告第一號  
 證ハ公證ノ式ニ欠缺アルモノトスルモ凡ソ父兄カ他人ト結成シタル  
 財産ニ就テノ契約ヲ其財産相續者タル子弟カ繼承スルニ當サニ法  
 理ノ然ラシムル處ナルニ絶ヘテ之ヲ推究スルコト無ク且ツ上告第二號  
 證亦成立ヲ正當ナラサル者ノ如ク說示スルモ既ニ被上告者カ其名下  
 ノ印影ヲ實印ナリト自白スル以上尙ホ之ヲ認知セサル者トセシニハ  
 其證據ナカル可ラサルニ之カ理由ヲ詳ラカニセズ而シテ該證ヲ排斥  
 スルニ未丁年者ノ契約ニシテ其未丁年者ノ爲メニ頗ル不利益ナリト  
 云フヲ以テシ未ダ曾テ民事契約上未丁年者ノ權義ヲ制限スルノ法律  
 在ルコト無キニ拘ラス一概ニ被告即上告者第一號二號證アルモ今更之ヲ以

テ控訴者ヘ對シ本訴ノ請求ヲ履行セシムル權利ナキモノトスルト判定  
 セシム不法ノ裁判ナリトス

○公債證書取戻ノ件明治二十七年四月二十三號

東京府京橋區南新堀町壹丁目六番地第六十三國立銀行東京支店  
 支配人菅春風代言人高野榮次郎ヨリ同府同區南傳馬町壹丁目拾七番地第  
 三十二國立銀行取締役東京支店主任山中隣之助代言人土ニ係ル  
 東京始審裁判所  
 終審 東京控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ  
 被上告第二號本證ハ二通ノ委任狀ナルモ只公債證書額面金高ノ差ア  
 揭ケ

一 拙者名義ヲ以  
 一部理代人ト相定メ左ノ權限ヲ代理爲



致候事

一七分利付金祿公債證書額面若干圓也賣渡候ニ付御檢印出願代理

調理ノ事

右委任狀仍テ如件

上告銀  
行印

第六十三銀行  
支店支配人

中澤彦吉印

被上告第三號

御花墨云々然ハ弊行名義ノ公債貴行ニ抵當ニ相成候分御賣却之由  
御報道被下難有御禮申上候右ニ付至急先方ニ掛合可申候間別段之  
思召ニテ四五日之處御勘辨被下候様願度云々

九月廿一日

某上告銀  
行

被上告人宛

被上告第六號

延期  
期

云々延期御依頼申上候處御了諾被成下依テ右日限訖度御返金可仕  
候萬一右返金相滯候節ハ兼テ右金額之見合抵當トシテ差出置申  
候七步利付金祿公債證書券面若干圓也第六十三銀行東京貴行ニ於テ  
御勝手ニ御賣却被成下不足金相立候ハ、當行ニ於テ辨償可仕候云  
々

第一百八國立銀行

明治十五年九月廿九日

東京支店印

被上告銀行宛

表面之通相違無之候也

第一百八國立銀行

十六年五月廿六日

跡引受人某印

本件ノ起因ハ上告人初審原告ニ於テ久我邦太郎ナル者ニ對シ曾テ金  
融ノ爲メ根抵當トシテ差入タル上告銀行取締役中澤彦吉ノ記名ナル



公債證書若干圓ノ取戻ヲ起訴セシム該公債證書ハ曩ニ久我邦太郎ヨリ第百八國立銀行ニ轉シ又轉シテ當時被上告人ノ手ニ在ルヲ以テ即チ被上告人ニ係リ之ヲ取戻ヲ追訴セシモノナリ而シテ其相争フ主眼ハ該公債證書ハ當初上告人ニ於テ久我邦太郎ニ其融通使用ヲ許ルセシモノナリヤ否ヤノ一點ニ在リテ被上告人答辯ノ要旨ハ該公債證書ハ被上告銀行カ第百八國立銀行ヨリ第二號證ノ委任狀ト共ニ抵當シテ受領セシモノニテ上告銀行カ當初久我邦太郎ニ其融通使用ヲ許ルセシモノナルヲハ該二號證ニ依リ明カナルノミナラズ被上告銀行カ之ヲ抵當トシテ領置セシハ第三號證等ノ如ク上告銀行ノ認諾上ニ出テシモノナレハ上告銀行カ第百八國立銀行ノ負債ヲ代償スル格別否ラズ之ヲ取戻サントスルハ不當ノ甚シキモノナリト云フニ在リ然レモ上告人ニ於テハ被上告第二號證委任狀ナルモノハ其公債證書種類額面金額并署名捺印ヲ除ク外ハ總テ被上告銀行カ恣ニ記入

セシモノナルノミナラズ受任者モ定マラサル不完全至極ノモノナレハ一片ノ反古ニ過キヌ又其第三號證等ハ來書ノ文意ヲ受ケテ迄ニ決シテ承諾ヲ表セシモノニアラサレハ被上告銀行カ本訴ノ公債證書ヲ所持スルハ不正ノ輾轉ニシテ所持ノ効力ナキモノナリト論シタリ初審裁判所ハ上告人直者ノ裁判ヲ與ヘシモ終審裁判所ハ被上告第三號證等ヲ以テ上告銀行承諾ノ上第六號證契約ノ成立ヲシテ證據ト爲スニ足ラサルモ其第三號證委任狀ノ公債證書種類額面金高并ニ署名捺印ハ實ニ記名人ノ手ニ成リシト同人ノ自白ニ依リ明カニシテ現時記名公債證書取引ノ實況ヲ觀察スルニ委任狀用紙ニ記名者ノ署名捺印セシモノヲ添ヘ輾轉流通スルヲ世人ノ怪マサル處ナリ尤モ其手續ハ充分ナラサルニ似タレ且既ニ委任狀用紙ニ署名捺印セシモノヲ他人ニ渡ス上ハ之ヲ以テ行ヒ得ヘキ權限ハ其人ニ放任セシモノト論定セサルヲ得サレハ被上告第六號證抵當ノ契約ハ効力アルモノト平翻シ



アリ爰ニ於テ上告人ハ此裁判ヲ不法トシテ上告セシモ大審院ハ原裁判ヲ適當ノモノト判決シタリ  
 其理由ニ曰ク本案上告第一條乃至第四條ノ旨趣ヲ審案スルニ上告銀行ハ右各條ニ於テ纏々論告スル所アリト雖モ要スルニ被上告第二號證ノ委任狀ト云フモノハ本案公債證書ノ種類金額又ハ其所有者ノ署名捺印ノミアル一片紙ニシテ何等ノ効力モナキ不完全至極ノモノナルニ原裁判所カ之ヲ採用シテ上告銀行ノ請求ヲ斥ケタルハ不法ナリト云フニ過キスシテ抑モ被上告第二號證ナルモノハ曩ニ上告銀行カ久我邦太郎ニ對シ本案公債證書ニ添附シテ抵當ニ差入レタル當時ニ在テハ其紙面上該公債證書ノ種類金額及上告銀行ノ社印並ニ取締役ナル中澤彦吉ノ署名捺印アルノミニシテ之ニ受任者ノ氏名ハ勿論委任條件ノ權限等モ記載ナカリシモノナルヘシ左スレハ當ニ右被上告第二號證ノミニ就テ其効用如何ヲ論究スルキハ上告銀行カ申立ル如ク寔ニ不完全ナル一片紙ニシテ何等ノ爲メニスルモノナルカ其目的スヲ知ルニ由ナキモノ、如シト雖モ爰ニ然リトスルヲ得サルノ形跡ノ掩フ可ラサルモノアルヲ如何セシ即チ上告銀行カ久我邦太郎ニ對シ本案公債證書ニ添附シテ抵當ニ差入レタルモノ是ナリ若シ被上告第二號證ニシテ何等ノ効力モナキ一片ノ反古紙ニ異ナラザリシモノナルキハ唯ニ該公債證書ニ添附スルノ必要ナキ而已ナラス當時契約者雙方ニ於テ何故ニ之ヲ授受セシカ其意旨ノ協合スル謂レモ亦々無カルヘシ然ルニ之ヲ添附セサルヲ得サルノ所以ノモノハ蓋シ上告銀行カ豫シメ其融通使用ヲ認許シタルノ目的ニ出タルモノト認ムルノ外ナシトス何ントナレハ右ハ各銀行又ハ商人間ニ於テ公債證書ノ取引上往々行ハルハ所ノ手續ニシテ原裁判説明ノ如ク世人ノ敢テ怪マサル所ナレハナリ故ニ本案公債證書ノ普通抵當ナルト根抵當ナルトヲ問ハズ之カ融通使用ヲ認許セサリシモノナラハ被上告第二號證ノ



如キテ之ニ添附スルノ必要ナキハ固ヨリ論ヲ竣タサルニ上告銀行ハ之カ辯解ヲ爲シテ曰ク久我邦太郎ニ對シ其負債償却ノ義務ヲ盡シ能ハサル場合ニ臨ミ記名者中澤彦不在其他ノ故障ヲ豫防セシモノナリト申立ナレトモ果シテ其辯解ノ如ク記名者不在等ノ豫防ニ出タル目的ナリトセハ之ヲ上告銀行ニ備ヘ置クヘキコソ當然ニシテ豫テ久我邦太郎ニ交附シ置クヘキノ必要ナルヲ見サルナリ然レミテラ本公債證書ハ中澤彦吉一己ノ所有品ニアラスシテ即チ上告銀行ノ所有品ナレハ中澤彦吉カ其銀行取締役タル資格ヲ以テ記名セシモノナルコトハ上告銀行モ亦タ自認スル所ナリ左スレハ中澤彦吉ニ於テ不在又ハ何等ノ故障アルモ該公債證書ノ賣買若クハ讓渡ヲ要スル場合ニ臨ミ其所有主タル上告銀行ニ於テ之ヲ處辨スルノ途ナシト云フ可ラス然ラサレハ若シ中澤彦吉ニシテ失踪又ハ病死シテ上告銀行ニ現在セサル場合ニ於テハ竟ニ之カ賣買讓渡等ヲ爲ス時期ナキニ至ルヘシ右

ノ如ク何レノ點ヨリ論スルモ上告銀行カ右辯解ノ旨趣ハ信用スルニ足ラサレハ旁々原裁判所カ之ヲ採ラサリシ所以ナリ且被上告第三號證ノ成立ニ於ルヤ其署名捺印者ナル中澤彦吉ニ於テ之ヲ確認スル而已ナラス上告銀行ニ於テモ之ヲ不正視スルニアラサレハ本案公債證書ト共ニ久我邦太郎ニ交附シタル以上ハ假令公債證書取引上ノ正面ヨリ論スルモハ不完全ヲ免カレサル手續ナルモノト爲サ、ルヲ得ルモ前述ノ如ク右ハ各銀行又ハ商人間ニ往々行ハル、所ノ慣習ニシテ本案ノ公債證書ニ於ルモ其融通使用ヲ認許シタルノ形跡アルヲ認ムルニ餘リアレハ番ニ其手續上ノ不完全ナルノミニ拘駐シテ之ヲ排斥セントスルノ一途ニ傾向セハ竟ニ本案ノ事情ニ背馳スルノ裁判ヲ爲サ、ル可ラサルニ至ルヘシ是レ原裁判所カ能以全體ノ事實ヲ斟酌シテ被上告第三號證ヲ採用シタル所以ナリ而シテ上告銀行ハ被上告第三號證委任狀ニ記載アル權限等ハ後日被上告銀行カ勝手ニ記入シ



タルモノナルヲハ始審審理中ノ口供ニ照シテ明ラカナレハ則チ被上告銀行ハ他人ノ權利義務ニ關スル證書ヲ増減變換シタル者ナレハ素ヨリ委任狀ノ効力ヲ有スヘキモノニ非ス云々ト申立レモ右口供タルヤ被上告銀行カ自ラ記入セリト確言シタル旨趣ニアラス良シヤ被上告銀行ニ於テ記入セシモノトスルモ詐偽其他不正ノ所爲ニ依リ上告銀行ノ承諾ヲ欠キタル原因アリト認ムルニ足ルヘキ證據之レナキ限リハ正當ニ記入セシモノト看做サルヲ得ス何ントナレハ本案公債證書ハ前文説明ノ如ク上告銀行カ其融通使用ヲ認許シタル形跡ヲ掩フ可ラサルモノアリテ既ニ被上告第六號證ノ如ク被上告銀行ニ對スル負債主タル第百八銀行カ辨償ノ義務ヲ行フ能ハサル以上之ヲ賣却セントスルハ契約上當然ノ所爲ナルヲ以テナリ況ンヤ被上告銀行ハ同業上ノ情誼ヲ以テ故ラニ之ヲ該公債證書ノ所有主ナル上告銀行ニ報道セシノ實跡アルハ被上告第三號證ニ照ラシテ明亮ナル而已ナラス

上告銀行ハ此報道アルニ據テ始メテ本案公債證書カ被上告銀行ノ抵當トナレルヲ覺知セリト云フヲ得サルノ景況ハ該被上告第三號證ノ文意上認ムルヲ得可キオヤ若シ然ル事情アルニアラスシテ上告銀行カ世間斯ノ如キ取引上ノ振合アルニ圖リ及ハスシテ其辯解ノ如ク單ニ中澤彦吉カ不在等ノ豫備ニ過キサリシモノト假定スルモ個ハ上告銀行ノ不注意ニシテ自ラ遁ル、能ハサル所ノ過失ト云ハサルヲ得ス苟モ世間行ハル、所ノ取引上毫モ惡意ナクシテ之ヲ得タル其被上告銀行ニ對シ自己ノ過失ヲ措キ之カ取戻ヲ要ムル如キハ頗ル條理ニ乖戻スルモノトス何ントナレハ自己カ欲セサル事件ヲシテ記入セシムルニ至リ又ハ他人ヲシテ之ヲ信スルニ至ラシメタルモノハ即チ自己カ過失ノ致ス所ナレハナリ然ルカ故ニ原裁判所カ上告銀行ノ請求ヲ斥ケタル所以ナリ是ヲ以テ上告銀行カ本案ニ對スル上告ノ旨趣ハ不相立モノトス



○下付金拒障解除ノ件明治十七年第三百六號

東京府日本橋區堀江町四丁目三番地平民玉置孝兵衛代言人田口

同府日本橋區小網町二丁目三番地平民久保豐次郎代言人藤友徳

係ル

初審東京始審裁判所

終審東京控訴裁判所

本件ハ明治十四年六月中身代限ノ言渡ヲ受ケタル小平文吾ナル者ニ

對シ同年十二月中上告人初審終審カ正當ノ手續ヲ履ミ建家土藏ヲ抵

當ト爲シ若干ノ金圓ヲ貸與セシニ翌十五年五月中該建家等公賣トナ

リシニ付上告人ハ先取特權ヲ以テ其貸與セシ元利金ヲ受取ラシメ

ルニ被上告人初審終審ニ於テ該負債者タル文吾ハ曩ニ被上告人ニ對

シ身代限ノ言渡ヲ受ケ未ダ其義務ヲ完了セサル者ナレハ其物件ハ法

律上負債者ノ所有權ナキモノナリ故ニ良シヤ正當ノ手續ヲ履ミタリ

ト所有權ナキ物件ノ書入質ハ其効力ナキ固ヨリ論ヲ駁タサルノミナ

ラス其貸借ハ身代限ノ後ニ成立ナシモノナレハ先取特權ハ儲テ置キ

上告人ハ一般ノ配當ヲモ受ケ得ヘキ者ニアラスト拒障スルモノニテ

初審終審ノ裁判ハ共ニ上告人ノ敗訴ニ販シタリ爰ニ於テ上告人カ上

告シタル要領ハ凡ソ身代限ノ言渡ニ因リ債主ノ差押ヘ得ヘキ財產ハ

負債者カ其言渡ヲ受ケタル時現ニ所有セシ分ニ止マリ其後負債者カ

正當ニ得タル財產ハ債主更ニ訴ヲ起シ裁判ヲ得テ之ヲ差押ユルヲ今

日ノ成規ト信ス本件負債者カ建家等ヲ買取タルハ身代限リ揭示滿期

後ノ事ニシテ殊ニ其之ヲ買取リタル代金ハ上告人ノ手ヨリ出テ之ヲ

買取ルト同時ニ抵當ト爲セシ者ナレハ万々既往ニ遡リ身代限ノ財產

中ニ加ヘラルヘキノ理アル可カラスト云フニ在リ依テ大審院ハ原裁

判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク負債者身代限ノ言渡ヲ受ケ財產取調濟分配以前ニ於テ



他ヨリ財産ヲ得又ハ財産ヲ藏匿セシ事ヲ債主發見セシ時ハ別ニ起訴ノ手續ヲ爲スヲ要セス直チニ其財産ヲ公賣シテ分配ニ加ヘント求ムルコトヲ得ヘシ然レトモ若シ其身代限言渡シ後ニ得タル財産ハ之ヲ得ルコト付キ他ニ出金主アリテ其出金ニ對シ直チニ之ヲ質入書入等ニ爲シタル場合ニ於テ其金主ハ其財産公賣金ノ内ヨリ己レカ出金ノ元利ヲ衆債主ヨリモ先取スルコトヲ得ヘシ衆債主ハ只餘分アル時之カ分配ニ加フルコトヲ得ルニ止マルノ道理ナリトス如何トナレハ負債者カ後ニ得タル所ノ財産ハ他ノ出金主アリシニ由レルモノナレハ出金主直チニ之ヲ質入書入等ニ取ルモ毫モ衆債主ノ權利ヲ害スルコトナキヲ以テナリ

然ラハ則本訴小平文吾ノ債主タル被上告人ハ上告人カ先取ノ權利ヲ得ントスルニ故障ヲ爲スノ道理ナシ然ルヲ原裁判所ノ裁判茲ニ出テス上告人ニ先取ノ權利ナキ裁判ヲ爲シタルハ法理ニ戻レルモノトス

○預金取戻ノ件明治三十六年三月六十一號

埼玉縣武藏國入間郡黒須村平民挾山病院相續講主任世話人繁田武平外四名代言人林和一ヨリ東京府日本橋區堀留町二丁目拾四番地平民第九十五國立銀行頭取米林倭作代言人長谷川深造ニ係ル

初審 東京始審裁判所  
終審 東京控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

甲第一號

預リ 證

講ニ會目

一金若干圓也

右ハ相續講ニ會目蒐集金正ニ預リ申候入用ノ節ハ何時ニテモ年若干ノ利子相加ヘ速ニ相渡可申候也



一明治十四年十二月廿二日

上告人宛

甲第二號

甲第三號

此兩號證ハ其金高月日等ニ小差アルノミニテ其文詞肩書記名調印宛名等何レモ甲第一號證ト同一ノ預リ證ナレバ署シテ掲グス以上テ上告人ノ證據書類トス

乙第五號本證ハ明治九年第六號布告改定國立銀行條例並銀行成規ニ據テ其内ノ必要ト認メタル部分ナリ

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役等ハ開業免狀ヲ得ルヨリヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣察國債

察出納察ノ三察ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟約定保證及ヒ報告往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用

社印ヲ鈴スヘシ但報告約定保證等ノ如キ文書ニハ頭取々締役及支配人ノ名印

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケ

サルハ銀行ハ其時間一日五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

且其頭取々締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サ

ラニ之ヲ見逃スニ於テハ是又右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀

行ノ頭取々締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫

刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形約

束手形切手證書註文書受取證書受合狀ニ至ルマテ凡其名號ヲ用

井ル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルハ



ハ拾圓ヨリ少ナカラズ五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且  
右等爲換手形約束手形切手注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行  
ヨリ拂渡サ、ルキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持  
主へ辨償スルノ責ニ任スヘシ

以上ヲ被上告人ノ證據書類トス  
本件ハ上告人初審終審ニ於テ其甲第一號乃至第三號證ヲ以テ被上告  
人初審終審ニ對シ曾テ被上告銀行川越支店へ預入レタル挾山病院相  
續講金若干圓ノ取戻ヲ請求スル者ナルモ被上告人ニ於テハ凡ソ我銀行  
ヨリ發スル預リ證券ハ銀行條例第十三條ニ從ヒ銀行ノ印ヲ押捺シ且  
當行ノ成規ニ據テ定式ノ用紙へ掛員ノ立會印ヲ要シ割印ヲナスモノ  
ナリ然ルニ甲第一號乃至第三號ノ預リ證ハ只渡邊敏行舊川越支店ノ  
初審被告ノ一人ナレハ蓋シ其職ヲ名印アル迄ニシテ相續講ノ用紙  
辭セシノ故ヲ以テ答辯ヲ辭シタルヲヲ用ヒ當銀行ノ鈐印モナク其成立チ一片ノ私約ニ過キサレハ渡邊敏

行ニ係ルハ格別當行ニ對シテ其取戻ヲ請求スルハ頗ル不當ナリト云  
フニ在リ初審裁判所ハ該預リ證ハ渡邊敏行カ一個人ノ資格ヲ以テ差  
出セシ者ニテ條例ニ依リ該銀行ノ認可ヲ經タル正當ノ證書ニアラサ  
レハ被上告銀行ニ於テ其義務ヲ負フヘキノ條理ヲシトテ上告人ノ要  
求相立タスト裁判シタリ終審裁判所モ亦凡ソ國立銀行カ他人ニ對  
シ契約ヲ取結フコ方テハ必ス條例第十三條ノ通り社印ヲ鈐ス可キモ  
ノニテ此規定ニ悖リタル役員ハ條例第六十三條ニ依リ其罰ヲ受ク且  
ツ銀行カ其義務ヲ看認メサルキハ自費ヲ以テ之ヲ辨償スルノ責任ア  
ル者ナリ今甲第一號乃至第三號證ヲ閱スルニ敏行ノ肩書ニハ第九十  
五國立銀行川越支店ト記載シ其名下ニハ支配人ノ印章ヲ押捺シアレ  
ハ條例第十三條ニ悖リ社印ヲ鈐セサレハ即チ條例第六十三條ノ制裁  
ヲ受ク可キ者ニテ該條ハ條例ニ違反セシ證書ノ義務ヲ認ムルト否ト  
ヲ特ニ銀行ノ信認ニ任セタルヲ以テ強テ被上告銀行ヲシテ之レカ義



務ヲ認メシムルヲ得サルモノナリト結局初審ノ裁判ヲ認可シ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要點ハ原裁判官カ銀行條例第六十三條中ニ前條トアルヲ同條例第十三條ヲ示指セシモノト判示シ又該六十三條ヲ以テ銀行ト役員ノ間ノ責任ヲ規定セシモノ、如ク判示シタルハ誤謬ノ見解ニシテ其前條トアルハ第六十三條ノ直上ナル第六十二條ヲ指シタルモノナリ而シテ該六十三條ハ第六十二條ノ諸規定ニ背キタル役員ノ處分法ヲ規定シタルマテニテ銀行ノ責任有無ヲ規定セシモノニアラス故ニ其次條即チ第六十四條ニ於テ銀行其名號ヲ以テ爲換手形約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖モ此人苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做ス可シト銀行ノ責任ヲ規定シタリ之レ則チ本件ヲ支配ス可キ箇條ニシテ此條ニ依レハ

被上告銀行ハ上告人ノ要求ニ應ス可キ責任アルコト明白ナルニ原裁判所ハ該六十四條ニ對シテハ更ニ説明ヲ與ヘス漫然第十三條及第六十三條ヲ把テ裁判シタルハ不法ナリト云フニ在リ依テ大審院ハ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ  
其理由ニ曰ク本訴上告ハ左ノ事項ヲ審定スルヲ必要トス  
國立銀行條例第十三條ト同條例第六十三條トハ相交渉シテ本訴ノ場合ニ適用スヘキ規定ナルヤ否ゾコト  
仍テ審案スルニ國立銀行條例第十三條ハ開業免許ヲ得タル銀行及其役員ノ印章等ニ付其届方又ハ用法ヲ示シタルモノナリ又同條例第六十三條ハ其前條即チ同條例第六十二條ニ定メタル銀行ノ掲牌ヲ掲ケス又ハ讀易キ社印及名號ヲ用ヒサル者ヲ處分スルノ方法ヲ示シタルモノナリ右各條ノ明文ニ參照スレハ其第十三條ト第六十三條トハ相交渉セサル各別ノ規定ニシテ右第六十三條ノ相交渉スルモノハ唯タ



其前條ナル第六十二條ノ規定アル而已左スレハ原裁判所カ上告甲第一二三號證即チ被上告銀行川越支店ノ名號ナル預金手形ノ採否如何ヲ判定スルニ國立銀行條例第十三條ト同條例第六十三條ト併セテ適用シ被上告銀行ニ於テ其拂渡ノ義務ヲ認メサルモハ右手形ノ記名者ナル渡邊敏行ノ負擔スヘキ者ト爲セシハ抑モ國立銀行條例ノ見解ヲ誤リタルモノニシテ殊ニ右預金手形ハ被上告銀行川越支店ノ社印ノ押用ナシト雖モ其署名ハ第九十五國立銀行川越支店渡邊敏行トアリ又押印ハ川越支店支配人之印トアリテ明カニ被上告銀行川越支店ノ名號ヲ用ヒ然シテ右渡邊敏行ナル者ハ當時被上告銀行ノ命任ヲ受タル川越支店ノ支配人ニシテ而モ該支店ノ社印ヲ管守スル其敏行ノ取扱ヒタルニ相違ナキニ於テハ條理上被上告銀行ハ其拂渡ノ責任ヲ免ル可ラサルモノナルニ原裁判所カ國立銀行條例第十三條ト同條例第六十三條ト誤用シテ上告者ノ請求ヲ斥ケタルハ不法ノ裁判ナリ

トス

○貸金催促ノ件 明治十六年 第六百廿九號

栃木縣下野國下都賀郡栃木旭町平民共益社々長坂本彦平代言人  
陳ヨリ 埼玉縣武藏國北埼玉郡平戸村三拾壹番地平民高橋幸次郎長  
 男東京府神田區錦町壹丁目拾六番地寄留高橋幸義代言人ニ係ル

初審 栃木始審裁判所  
 終審 東京控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ  
 上告第一號

借入金證書

一金三千六百圓

此抵當云々高橋幸次郎 所有田畑

右ハ云々借用申處實正也返濟之儀ハ明治十三年十月ヨリ滿十ヶ年



之間毎月廿日限り金三拾圓ツ、御返濟可申候云々

明治十四年第九月十一日

借用人 谷田貝辨吉印

同 小川勝次郎印

同 高橋幸次郎印

請人六名證人壹名印

上告人宛

右村戸長抵當本人ニ付

筆生 某 印

以上上告人ノ證據書類トス

被上告第二號本證ハ共益社頼母子講ノ規則ニシテ爰ニハ  
只本件ニ必要ノ部分ノミヲ掲クルモノナリ

共益社

第一條 一口數貳千貳百本

但シ一口ニ付掛金壹圓也

此集金貳千貳百圓也

内譯

金千圓也 本園當り金

金貳百五拾圓也周旋料其他  
會場諸費

金九百五拾圓也雜金

第二條 一 會之儀ハ壹ケ年拾貳會ト相定毎月陽曆廿日トシ滿十

ケ年ニシテ滿會ス云々

第三條 一 初會ヨリ三會目迄ハ本園差出シ以下雜園本園一會置

施行候事

第四條 一 雜金ハ一口ニ付金六拾圓以下トス尤モ園數ヲ經候後

ハ社中相談之上雜金増加スルコアルヘシ

第五條 一 本園雜園共落札之御方ハ手取金額ニ不拘證書金百貳

拾圓トス之ニ相當之地所書入戸長ノ公正ノ證ヲ得云々若シ抵當



地所無之御方ハ當リ金ノ内金百貳拾圓社中へ預リ利子ヲ以テ掛  
ケ續キ滿會ニ至リ本金百貳拾圓返却可致候事

第六條 一 糶園落札之御方ト雖モ證書及抵當云々前同斷ニ候事

但シ抵當無之御方ハ糶園御斷候事

第七條 一 掛金次會迄相滯候節ハ云々

第八條 一 滿會ニ至リ當リ園又ハ糶園等ニ相洩シ殘園ノ御方エ

ハ一口ニ付金千圓以下金百四拾圓以上ヲ割戻シ候事

以上ヲ被上告人ノ證據書類トス

本件ハ上告人<sup>初審原告</sup>ニ於テ其第一號證ノ月濟金淹滯高若干圓ヲ連  
帶義務者三名ニ對シテ請求スルモノナリ然ルニ内二名ハ對審以前身  
代限リノ處分ヲ乞ヒシモ其一人ナル被上告人ノ父高橋幸次郎<sup>初審被告</sup>  
原ニ於テハ元來上告第一號證ノ金圓ハ外二名ノ者カ糶落シタル共益  
社頼母子講數口ノ金圓ニシテ同人カ該證書ニ連印セシハ二名ノ者ヨ

リ抵當物借用ノ依頼ヲ受ケ單ニ其名義ヲ貸與セシ迄ニテ全ク同人ニ  
於テ借用セシ金圓ニアラサレハ其請求ニ應シ難キ旨抗辯シタリ初審  
裁判所ハ假令其金圓ハ幸次郎ニ於テ使用セシモノニアラサルモ上告  
人ニ對シテハ皆同一ノ連帶義務者ナルヲ目瞭ニ付之カ償却ノ義務ハ  
免ル可キコアラストテ幸次郎ノ敗訴ト爲セシモ終審裁判所ハ之ヲ平  
翻シ幸次郎カ辨償ノ義務アリヤ否ヤヲ判定スルニハ上告第一號證ノ  
基因タル共益社頼母子講組織ノ方法如何ヲ審明スルヲ緊要ナリトシ  
被上告第二號證ノ講則ハ壹圓ノ掛金ヲ爲シテ壹千圓ヲ得而シテ金百  
貳拾圓ヲ掛了ルニ止マルモノナレハ元來僥倖ノ利ヲ以テ人ヲ誘惑シ  
公益ヲ害スルモノト謂フヘク又上告第一號證ノ金圓ハ被上告第二號  
證第四條ニ依リ糶落セシモノナレハ其金三千六百圓ハ元利ノ合算ヨ  
リ成リタルモノナリ然ラハ最モ不當ノ高利ニ屬スルモノニテ何レノ  
點ヨリ論スルモ本案ハ裁判上ノ保護ヲ仰キ得ヘキモノニアラスト裁



判シタリ爰ニ於テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告セシニ高橋幸次郎ハ大審院カ呼出狀ヲ送達スルニ先テ失踪シ其行衛分明ナラサルニ付該院ハ其始末ヲ上告人ニ達セシニ上告人ハ其長男ナル被上告人ニ係リ判決アラソフヲ求メタリ然ルニ被上告人ニ於テハ本上告ハ明治八年第六號ノ布告ニ準據ス可キモノナリトテ上告人カ別居異産殊ニ失踪人ノ遺留財産ヲモ管理セサル被上告人ニ係リ只長男タルノ故ヲ以テ本案ノ答辯ヲ要ムルハ頗ル不法ナル旨ヲ辯論シタリ依テ該院ハ先ツ豫審ノ裁判ヲ以テ該第六號ノ布告ハ上告ノ場合ニ適用スヘキ者ニアラサルヲ并ニ被上告人カ別居異産云々ノ申立ヲ以テ本案ノ答辯ヲ拒ムノ不當ナルヲ判決シ尋テ原裁判所カ下シタル裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク本訴上告ノ旨趣ハ左ノ二項ヲ審定スルヲ緊要ナリトス  
 其一 被上告第二號證講則ハ僥倖射利ノ方法ニシテ世人ヲ誘惑シ

公益ヲ妨害スルモノナルヤ否

其二 上告第二號證金額ハ元利ヲ合算シタルモノニシテ不當ノ高利ナルヤ否

右第一項ヲ審案スルニ抑モ本講ノ組織タルヤ其第一條乃至第十四條ニ定メタル所ハ口數貳千貳百本一口ニ付每會金壹圓掛此集金高貳千貳百圓ニシテ此内ヨリ本籤ト糶籤ト二様ニ分チ百貳拾回ノ滿會ニ至ル迄早晚一口ニ付本籤ナレハ壹千圓糶籤ナレハ六拾圓以下但會數ヲ糶籤金ヲ増殖スル方法ノ金額ヲ得若シ滿會ニ至ル迄當籤セサルモノハ壹千圓乃至百四拾圓ノ割戻金ヲ受ルモノニシテ且其糶籤金ノ如キハ一ノ便宜法ニテ本籤當リ又ハ滿會割戻ノ期ヲ待ツノ違アラサル者カ其需用ノ緩急ニ依リ互ニ競争シテ之ヲ糶落スモノナリ而シ本籤糶籤ヲ問ハス其之ヲ得タル者ニハ必ス掛戻ノ義務ヲ盡サシムルモノナレハ決シテ一錢ヲ投シテ千金ヲ得數金ヲ抛ツテ一錢ヲモ得サルカ如キ取除無盡

上告第二號證  
 ハ第一號證ノ  
 誤リナルヘシ



等ノモノト日ヲ同フシテ論スヘキ方法ニ非ス又其糶籤ヲ取リタル者ハ少數ノ糶落金ヲ得テ多額ノ掛戻金ヲ拂フヘキノ義務ヲ生スルアルモ是亦不正ノ方法ニ非ス何ントナレハ其當籤者ハ早晚本籤當リ又ハ滿會割戻ノ期アルニモ拘ハラズ自ラ進ンテ少數ノ金額ヲ得ント希望スルモノハ必竟他日多額ノ金圓ヲ拂フニ充分ナル活用ヲ得ルノ目的アリテ然リシモノト看做シ得可ケレハナリ

右第二項ヲ審案スルニ上告第一號貸金證ハ被上告第二號證講則第五六條ニ定メアル如ク本籤又ハ糶籤金ヲ得タル者ヲシテ其掛戻金ノ淹滞ナカラシメンカ爲メ之ヲ豫防スルノ要具ニシテ右證書中「毎月廿日限り金三十圓ツ、御返濟可申トアルハ即チ其當籤者ナル谷田貝辨吉等カ當然該講社ヘ掛戻スヘキ金額ナレハ其辨吉等カ糶落シ得タル金額ハ之ニ超過スルノ金額ヲ掛戻サ、ルヲ得サルニ至ルモ個ハ前第一項末段ニモ辯明スル如ク不正ノ方法ニ非ス左スレハ右貸金ハ講則上

ノ掛戻金ニシテ固ヨリ元利ヲ合算シタルモノニアラサレハ從テ不當ノ高利ト云テ得サルモノトス

前兩項ニ説明スル如クナレハ原裁判所カ本訴講則及其請求金ハ裁判上ノ保護ヲ得可キモノニ非ストシテ之ヲ斥ケタルハ不法ヲ免カレサル裁判ナリトス

○貸金催促ノ件明治十七年第七十六號

島根縣出雲國大原郡大東町平民要三父福島與三右衛門并ニ福島

要三代言人山ヨリ島根縣出雲國意宇郡上來海村平民錦織義助代

人天野確野係ル

初審 松江始審裁判所

終審 廣島控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

甲第一號



證

一貴家ト私家トハ是迄種々ノ取引有之候得共云々今後金員貸借其  
他一切ノ權義上ニ於テ毫モ異論苦情等不申上候尙モ如何ナル名  
義ノ證書類有之候共今後ニ於テ自家ヨリ貴家へ對シ毫モ權利ナ  
有ズキモノニ無之候云々

明治十年四月五日

被上告人印

上告人福島要三宛

以上テ上告人ノ證據書類トス

乙第六號

借用金證書

一金若干圓

但

右之金正ニ借用申處實正也然上ハ但書御儀定之通期限無間違御返

辨可仕候云々

明治七年戌十二月

本人

福島與三右衛門

印<sub>上告</sub>

請人

福島要三

印<sub>同</sub>

被上告人宛

以上テ被上告人ノ證據書類トス

本件ハ被上告人<sub>初審原告</sub>ニ於テ乙第六號證ヲ掲ケ上告人福島與三右

衛門<sub>初審被告</sub>ニ對シ貸金ノ請求ヲ爲スモノニテ與三右衛門ニ於テハ退

隱ノ身ナレハ本訴ハ相續人要三<sub>上告人</sub>ニ係ルヘキ筋合ナルノミナラ

ズ該借用金ハ既ニ出訴期限ヲ經過セシモノナリト辯難シ被上告人ニ

於テハ與三右衛門退隱ノコトハ承知ノ上出訴セシモノナレハ與三右衛門

一身ノ財産ヲ以テ濟方受度シ且ツ該借用金ノ期限ハ滿六ケ年ノ約定

ナル旨主張シタリ初審裁判所ハ該貸借ハ豫メ期限ヲ定メシ證據ノ視

ルヘキモノナケレハ無期限ノ貸借ナリト認定シ被上告人ニ於テ與三



右衛門一身ノ財産ヲ以テ濟方受度キ旨申立ル上ハ退隱者ナリトテ其詞訟ヲ拒ムハ不當ナリトテ被上告人ノ勝訴トナシタリ依テ與三右衛門ハ之ヲ控訴スルニ當リ甲第一號證ヲ掲ケ被上告人カ相續人要三ニ係ラサル所以ノモノハ此一號證アルニ依リシモノニテ初審答辯ノ際ハ要三カスル證書ヲ所持セシヲ知ラサリシヲ以テ相續人ニ係ル可キ筋ナリト論セシモ此證書ニ依レハ最早其義務ノ消滅セシヲ明カナリト論シタリ然レモ終審裁判所ハ該甲第一號證ヲ不正ノモノト認定シ乙第六號證カ被上告人ノ手ニ存在スル以上ハ與三右衛門ハ本訴ノ義務ヲ免カレタル者ニアラストテ被上告人カ本訴ノ義務ハ要三ニ對シ請求スル筋ナキ旨ヲ主張セシニモ拘ハラヌ被上告人請求ノ金圓ニ對シ與三右衛門ノ返濟スヘキハ勿論若シ退隱後資産ノ之ニ充ツヘキモノナケレハ相續人要三ヲシテ擔償セシムヘシト裁判シ與三右衛門ニ於テ訴訟期限ノ事ニ付上申セシ處アルモ此争點ニ付テハ更ニ何等ノ裁判ヲモ與ヘサリシヲ以テ上告人等カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一條原裁判所カ甲第一號證ヲ以テ不正ノ者ト認定セシハ不法ナリトノ第二條原裁判所カ退隱後云々ト裁判セシハ訴外ニ涉リシ不法ノ裁判ナリトノ第三條原裁判所カ出訴期限ニ對シテ何等ノ判定ヲ與ヘサリシハ不法ナリトノニシテ大審院ハ上告第二條第三條ノ點ニ對シ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ其理由ニ曰ク第一條 上告第一條ノ旨趣ハ原裁判所カ甲第一號證ヲ不真正ト認定セシヲニ對シ非難スルモノニシテ原裁判所カ史料ノ材料ニ引用セシ各事項ニ付每件辯解論告スル所アリト雖モ此等數個ノ證據ヲ合シテ史料ノ材料ト爲シタルモノハ各個ニ分析シテ其證據ノ効力如何ヲ論ス可キ筋ニ非サル而已ナラス事實ノ認定ハ原裁判所ノ職權ニ屬スルニ因リ其認定ノ當否ヲ論シテ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス



第二條 上告第二條ノ旨趣ヲ審案スルニ與三右衛門ハ原裁判所ニ對シ本訴ハ戶主要三ニ係リ訴フ可キ筋ニシテ退隱者ナル與三右衛門ニ係リ訴フルノ筋ナキヲ論シタルニ被上告人ハ本訴ノ義務ハ與三右衛門ニ對シ請求ス可キ筋ニテ要三ニ對シ請求スルノ筋ナキヲ主張シタルコトハ控訴答書第一二條第二答辯書第二條明治十六年七月廿七日口供第二項ニ於テ明白ナリ然レハ原裁判所ハ先ツ其對手人ト爲リ義務ノ請求ヲ受ク可キ者ハ與三右衛門ト要三ノ中何レニアルヤヲ定メサル可ラス而シテ若シ與三右衛門カ請求ヲ受ク可キ者ト論定スルコト於テハ與三右衛門ヨリ其義務ヲ盡ス可キ旨ヲ言渡スニ止マリ要三カ辨償ノ義務アルコトヲ言渡ス可キ筋ナシ何トナレハ被上告人ハ素ヨリ要三ニ對シ請求ス可キモノニ非サル旨ヲ主張スルモノニテ裁判上原告人ノ請求外ニ立入り裁判ヲ爲ス可キ條理アラサレハナリ然ルニ原裁判所ハ其請求ヲ受ク可キモノ、何レニアルヤヲ判定セサル而已ナ

ラス(若シ退隱後資産ノ之ニ充ツ可キ者ナケレハ相續人要三ヲシテ擔償セシムヘシ)ト請求外ニ立入裁判ヲ與ヘシハ不法ノ裁判ナリトス

第三條 上告第三條ノ旨趣ヲ審案スルニ上告人ハ原裁判所ニ於テ出訴期限ノコトヲ爭論シタルハ原書類中明治十七年一月十八日附第二上申書第二條ニ明白ナリ然レハ此ノ爭點ハ本訴請求權ノ有無ニ關スル要件ナレハ第一ニ之ヲ判決セサル可テサル筋ナルニ原裁判所ハ此點ニ對シ何等ノ判決ヲモ與ヘサリシハ不法ノ裁判ナリトス

○貸金催促ノ件 明治十七年 第三百號

茨城縣常陸國那珂郡村松村平民照沼武左衛門 代言人 鴨田直 ヨリ茨城縣常陸國東茨城郡水戸下市川崎町士族小山田勝貞 代言人 高橋重藏 ニ係

初審 水戸始審裁判所  
終審 東京控訴裁判所

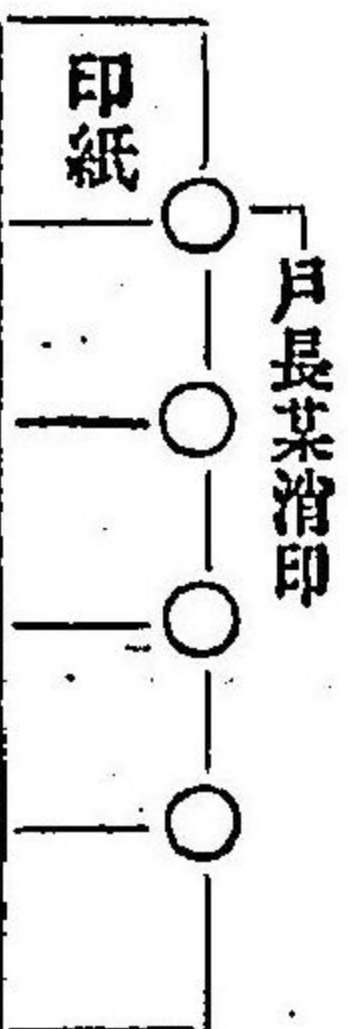


本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

甲第一號

借入金證

一金若干圓也



被上告人消印

印紙

此抵當

同

字反別云々

右金圓正ニ受取借用申處確實也云々

明治十五年一月卅一日

借用人 上告人 印

保證人 某 印

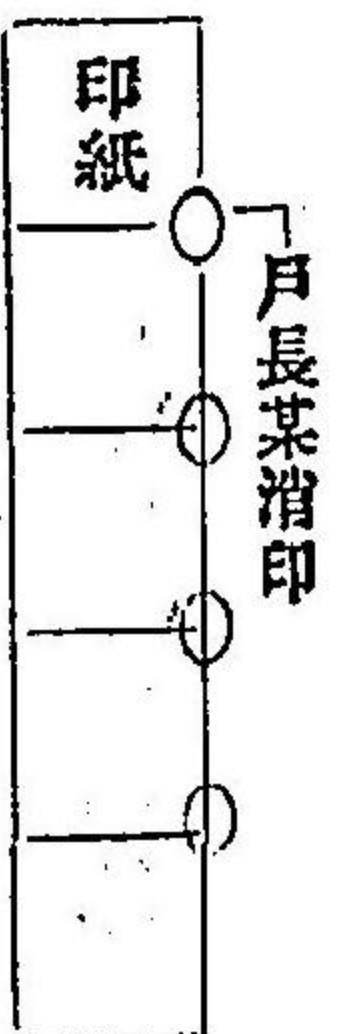
被上告人 宛

戶長 某 印

甲第二號

借入金證

一金若干圓也



被上告人消印

印紙

此抵當

同

字反別云々

右金圓正ニ受取借用申處確實也云々

明治十五年一月廿九日

借用人 上告人 印

保證人 某 印

被上告人 宛

戶長 某 印

本件ハ被上告人<sup>初審原告</sup>ニ於テ甲第壹貳號證ヲ掲ケ上告人<sup>終審被告</sup>ニ對シ貸金ノ請求ヲ爲スモノナルモ該壹貳號證ハ明治七年太政官第八十一號布告證券印紙規則ニ背戾シ其印紙ノ消印借主タル上告人ノ消



印ニアラサルヲ以テ<sup>戸長某消印ストア</sup>勸解中係リ官ノ告發スル處トナ  
 リ水戸輕罪裁判所ニ於テ兩造共科料ノ處分ヲ受ケシモノナレハ更ニ  
 規則ニ基キ印紙貼用等ノ手續ヲ盡サ、レバ未ダ正當ノ證書ニアラサ  
 ルヲ被上告人ハ既ニ處分ヲ受ケタル上ハ最早犯則ノモノニアラスト  
 思惟シ其儘之ヲ初審裁判所ニ呈供セシニ裁判官始メ上告人ニ於テモ  
 此點ニ心付カス其裁判ハ終ニ上告人ノ敗訴ニ販シタリ依テ上告人ハ  
 之ヲ不當トシテ控訴セシニ其控訴中該證書ノ犯則タリシコトヲ發見シ  
 初審裁判所カ犯則ノ證書ヲ探テ裁判ヲ下セシハ同規則第五則第十一  
 條ニ違背シ受理スヘカラサルモノヲ受理シタル違法無効ノ裁判ナレ  
 ハ良シヤ被上告人カ今更テ其印紙ヲ貼用消印シタリトテ更ニ初審ノ  
 裁判ヲ受クヘキモノナリト豫審ノ判決ヲ乞ヒシモノナリ然レモ被上  
 告人ハ已ニ同則第十二條ニ基キ改テ印紙貼用消印ノ上ハ本案ノ裁判  
 ヲ受クヘキモノナリト辯論シタリ爰ニ於テ終審裁判所ハ先ツ豫審ノ

裁判ヲ與ヘ甲第一二號證ハ今被上告人カ印紙ヲ貼付消印シ提出スル  
 ニ因リ始テ採用スヘキモノナレモ已ニ初審應ニ於テ兩造カ本訴貸金  
 ノ事實ヲ論究シタル末與ヘラレタル裁判ヲ無効トスヘキ理由ナケレ  
 ハ上告人ノ開申スル處ハ徒ニ初審探證ノ不當ヲ鳴ラスノミニテ不服  
 中ノ一點ト見倣サ、ルヲ得ストテ上告人ハ速ニ本案ノ申立ヲ爲ス可  
 シト裁判セシニ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ然レモ大審院ハ  
 原裁判ヲ適當ノモノト判決シタリ  
 其理由ニ曰ク本訴甲第一二號證ハ證券印紙規則ニ背戾スルニ依リ始  
 審裁判所カ本訴ノ裁判ヲ與ヘタルハ無効ニ屬スルモノ、如シト雖モ  
 原控訴裁判所カ本訴ノ覆審ヲ倣スニ方リ被上告人ハ更ニ該規則ニ基  
 キ印紙ヲ貼用シテ之ヲ提出スル以上ハ裁判上當然受理スヘキ證書ナ  
 ルニ付今更其以前ニ遡リ始審裁判ヲシテ無効ナラシムルノ理由ナキ  
 モノトス如何トナレハ始審裁判所カ其證書ノ檢査上之ヲ發見シタリ



シナラハ之ニ相當ノ印紙ヲ貼用セシメ受理スヘキハ勿論ナル而已ナ  
ラス既ニ上告人ニハ右證書ノ印紙貼用上ニ何等ノ故障ナク本訴事實  
上ノ争點ニ於ルモ双方ノ辯論ヲ審聽シ之カ裁判ヲ與ヘタルモノナレ  
ハ曩ニ始審裁判所カ之ヲ發見セサリシハ其怠リナシト云フ可ラサル  
モ爲メニ本訴ノ利害ニ影響ヲ來スヘキ事柄ニアラサレハナリ

○營業毀損回復ノ件明治十六年第六百六拾六號

東京府芝區三田貳丁目貳番地寄留大分縣士族時事新報編輯人石

川半次郎代言人 田俊三ヨリ東京府京橋區銀座貳丁目壹番地平民岸田

吟香外四拾貳名總代兼同府同區大鋸町六番地平民喜谷市郎右衛

門外貳名代言人 尾清次郎ニ係ル

初審 東京始審裁判所

終審 東京控訴裁判所

本件ハ明治十五年十月時事新報第二百二號ニ太政官第五拾壹號布告

ト題スル一篇ノ論說中賣藥ハ人ノ爲メニ功能ナキモノナリ病ニ功ヲ  
奏ス可キ程ノ藥品ナレハ之ヲ誤用シテ害ヲ爲スカ故ニ政府ニ於テ之  
ヲ許サス無功無害之ヲ服スルモ可ナリ服セサルモ亦可ナリ水ヲ飲ミ  
茶ヲ飲ムニ等シク香ヲ臭キ胡椒ヲ嚙ムモ同様ノモノニシテ始メテ發  
賣ノ許可ヲ得ルモノナレハ名ハ藥ニシテ實ハ疾ニ關係ナキ賣物ナリ  
云々トアリシヲ被上告人初審原告ニ於テ自己ノ營業ヲ毀損セシモノ  
トナシ上告人終審原告ニ對シ該論說取消ノ廣告ヲ爲スヘキ旨ヲ求ム  
ルモノナリ初審裁判所ハ賣藥ナルモノハ官廳ノ鑒査ヲ經テ販賣スル  
モノナレハ好シ其效能ニ厚薄アルモ之ヲ無効ト斷言ス可ラス然ルニ  
病ニ關係ナキモノト極論シタルハ自由言論ノ區域ヲ超ヘタル文章ニ  
シテ即チ營業ヲ毀損シタルヲ勿論ナリト認メ被上告人ヲ以テ勝訴ト  
セリ控訴裁判所モ亦該文章ハ賣藥營業者ヲ譏毀スルノ故意ニ出タル  
ニ非ストスルモ名譽ハ無形ノ財産ニシテ妄ニ之ヲ譏毀セハ隨テ害ヲ



生スルハ理ノ親易キモノトノ趣旨ニテ被上告人請求ノ如ク五日間取消廣告ヲナスヘキノ裁判ヲ下セリ爰ニ於テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル理由ハ抑誹毀犯ヲ組成セシニハ其目的タル人ヲ直接又ハ間接ニ指定セルヲ加害者ニ惡意アルヲ言語文章ノ不實ナルヲ三條件ヲ具備スルヲ要スルモノナレハ該説文ヲ以テ誹毀ナリトセハ彼條件ノ具備セルヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判文ノ茲ニ出テサリシハ不備ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ大審院ハ原裁判ヲ不當ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク本訴ノ要旨ハ時事新報第二百二號ノ論説ヲ以テ賣藥營業ヲ毀損セシモノト爲シ之ヲ取消サシムヘキ理由アリヤ否ヲ判決スルノ一點ニ在リ

然ルニ右ノ論説ハ賣藥課税ノ布告アリシニヨリ賣藥ノ性質ヲ汎論セシニ止リ某賣藥某營業者ヲ指名セシ事ナキハ勿論暗指セシ事モアラズ其行文中語勢極端ニ馳セ少シク平穩ナラサル所ナキニ非スト雖モ原裁判所モ已ニ看認メタル如ク毫モ惡意ヲ包藏セシ事ナシ是議毀ナリトスルノ要件ヲ具有セサルモノニシテ刑事上ハ勿論民事上ニ於テモ何等ノ責任ナキ論説ナリトス然ルヲ東京控訴裁判所カ上文ニ掲シル理由ニ依リ五日間取消ノ廣告ヲ爲ス可シト言渡シタルハ違法ノ裁判ナリトス

○裁判執行ノ件明治十七年  
第二百十六號

廣島縣安藝國山縣郡今田村五百七拾八番地平民村金儀助代言人  
白石剛  
ヨリ廣島縣安藝國廣島區大手町四丁目四百七拾番地平民福田貞  
助代言人  
國枝毅ニ係ル

初審 廣島始審裁判所  
終審 廣島控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ



上告參考證

裁判言渡書

原告 上告人  
被告 被上告人

家屋取除及損害要償ノ控訴本件ハ廣島始審裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ナリ云々原告ノ要ムル若干坪ノ地ニ對シ被告ハ正當ノ名義ニ因リ善意ヲ以テ占有セシ乎云々其意思ハ惡意タルコトノ視ル可ラサレハ錯誤ヨリ之ヲ占有セシモノト認定ス云々因テ被告ハ原告ノ買受ケタル明治十四年九月以後地代金比隣相當ノ貸地代ヲ積算シ以テ之ヲ原告ニ償却スベシ云々

明治十六年九月廿八日

廣島控訴裁判所

判事及書記印

本件ハ曾テ上告人<sup>初審終審</sup>ニ於テ家屋取除及損害要償ト題シタル一訴訟ヲ提起シタル末廣島控訴裁判所ノ終審裁判<sup>上告</sup>ニ依リ比隣相當ノ貸地料ナリトテ一坪ニ付一日金若干ノ割ヲ以テ被上告人<sup>初審終審</sup>ニ對シ其執行ヲ需メシモノナルモ被上告人ニ於テ之ヲ不相當ナリトシ反證ヲ掲テ抗拒セシニ依リ初審裁判所ハ一坪ニ付一ケ年金若干ヲ以テ相當ノ貸地料ト認定シ以テ被上告人ニ其執行ヲ命セシニ上告人ハ此認定ヲ不當トシテ控訴シタリ然レモ終審裁判所ハ本訴ハ裁判執行ノ命令ニ對スル不服ニシテ當廳ノ受理ス可キモノニアラスト却下シタリ依テ上告ノ末大審院ハ此却下ノ裁判ヲ不法ノモノト認メ破毀シタリ

其理由ニ曰ク本案上告者カ執行ヲ請求セシハ上告參考證終審裁判ニシテ其判旨タル被上告者ハ上告者ノ土地ヲ錯誤ヨリ占有セシモノト認メ其土地ニ對シ被上告者ハ比隣相當ノ借地代金ヲ償却スベシト言



渡セシモノニシテ其地代金高ノ如何ハ當時争點外ナリシヲ以テ之レ  
カ判決ハナカリシモノナリ然ルニ其裁判執行ニ際リ價額上兩造ニ異  
論アリシヲ以テ始審廳ハ價額ヲ定メ其執行ヲ命令セリ然レモ其價額  
タル固ヨリ終審ノ判決アリシニモ非ス其執行ニ際リ新ニ生シタル争  
訟ニシテ始審廳ノ認定ニ係リシモノナレハ上告者カ其認定ニ異議ア  
レハ則チ控訴シ其覆審ヲ求メ得ヘキモノナリ然ルニ原裁判所ハ單ニ  
執行命令ノ不服ナリトテ控訴狀ヲ却下シタルハ不法ナリトス

○執行ニ對スル訴訟入費不服ノ件明治十七年  
第三百十七號

岐阜縣美濃國安八郡大垣郭町平民森儀平代言人  
平塚有ヨリ岐阜縣美濃

國安八郡三郷村平民森藤右衛門外壹名代言人  
瀬帆三廣ニ係ル

初審 大垣治安裁判所

終審 岐阜始審裁判所

本件ハ會テ被上告人等初審原告  
終審被告ノ勝訴ニ販シタル事件ニ付被上告人

等ヨリ上告人初審被告  
終審原告ニ對シ之カ訴訟入費ノ執行ヲ求メシニ上告人

ニ於テ其計算中不當ノ廉アルヲ抗辯シ數十回對審ノ末終ニ被上告人

等ヲシテ之ヲ控除セシムルニ至リシヨリ上告人ハ執行ニ對スル訴訟

入費ノ内被上告人等カ此不當ノ廉ヲ控除スルニ至リシ迄ノ分ハ當然

被上告人等ノ負擔スヘキモノナリト論セシモノナルモ初審裁判所ハ

其執行命令ノ終ニ於テ執行ニ對スル訴訟入費モ成規ノ通り上告人ニ

於テ辨償ス可シト言渡セシヲ以テ上告人ハ之ヲ不當トシテ控訴セシ

ニ終審裁判所モ亦本案ハ執行入費ニ付テノ控訴ナルニ初審裁判所ノ

言渡ハ執行ニ付テノ争點ヲ判決セシモノニ非スシテ執行ノ命令ヲナ

シタルモノナレハ受理セストテ之ヲ却下シタリ依テ上告ノ末大審院

ハ此却下ノ裁判ヲ不法ノモノト認メ破毀シタリ

其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ニ因リ之ヲ審案スルニ裁判執行ノ命令トハ

既ニ終審裁判ヲ經タルカ又ハ裁判確定セシ事件ニ付敗訴者ニ於テ謂



ハレナキ苦情ヲ唱へ又ハ延期等ヲ申出執行ノ怠慢ヲ爲ス者ニ對シ裁判ノ如ク執行ヲ爲ス可キ旨ノ令狀ヲ發スルニ過サルモノコト固ヨリ爭論ヲ裁判ス可キ筋ノモノニ非ス然ルニ本件ハ執行中ノ訴訟入費辨償ノ爭論ヨリ前ノ裁判執行濟ニ至ラサルモノニテ其爭論ノ由來ハ被上告人カ執行ヲ請求スル金額中上告人ニ於テ不當ノ計算アルヲ抗辯シ終ニ被上告人ニ於テ其抗辯ノ如ク請求金額ヲ控除セシニ因リ上告人ハ其不當ノ金額ヲ控除スルカ爲メ費シタル日當其他ノ入費ハ被上告人ニ於テ負擔ス可キヲ論シタルモノニテ其爭點タル辭ニ確定セシ裁判ノ範圍内ノコトニ非ス然レハ假令始審裁判所カ命令ノ名義ヲ以テ申渡ヲ爲シタリトスルモ不服アラハ尙ホ控訴ヲ爲スヲ得可ラサルノ理ナシ何トナレハ前ノ確定裁判ノ範圍外ノ爭點曲直ニ對シテハ素ヨリ令狀ヲ以テ之ヲ定メ得ヘキ筋ナキニ因リ其爭點ノ曲直ヲ定メタル部分ハ一ノ裁判ヲ爲シタルモノト看做サルヲ得サレハナリ況テ本

件始審ノ申渡ハ命令ノ名義ニ非ス裁判ヲ爲シタルモノナルコトハ言渡書ノ明文上判然タルコトナルニ原裁判所ハ是等ノ理由及ヒ事實ノ明文アルニモ注意セズ大垣治安裁判所ノ言渡タルヤ執行ニ付テノ爭點ヲ判決シタルモノニ非ス即チ執行ノ命令ヲナシタルモノト論シテ本件控訴ヲ却下シタルハ不法ノ裁判ナリトス



明治十八年大審院商事判決錄

目 錄

一 銀行株券請求ノ件	明治十六年 第三百七十號	一
一 商品受取方并損害要償ノ件	明治十七年 第二百九十號	八

(參加人呼出  
シニ關ス)

(廻漕貨物取扱條例並至急  
事件ニ付裁判管轄ニ關ス)

丁 數



明治十八年大審院商事判決錄

○銀行株券請求ノ件明治十六年  
第三百七十號

神奈川縣橫濱區南仲通二丁目第七十四國立銀行頭取茂木總兵衛

代言人土  
山虎四郎ヨリ石川縣金澤區西町藪之内六番地士族亡直温相續人

吉江長松後見人運上藤兵衛代言人  
岩鐵之助ニ係ル

初審 橫濱始審裁判所

終審 東京控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

乙第一號

拙者義長尾助信ヲ以テ部理代人ト定メ拙者名義ニテ左ノ權限ノ事

ヲ代理爲致候事

一拙者所有ノ第三百三十三國立銀行株券ヲ該銀行へ保護預ケ抵當ト

ナシ云々金子借用ノ事



一該銀行ヨリ借用金返濟期限ニ至リ萬一返金相滯候節ハ云々株券  
賣拂元利金返納ノ手續取計候事  
一年々該銀行ヨリ相渡リ候純益請取候事

明治十一年十月廿五日

吉江直温印

乙第二號

株式賣買證書

第七十四國立銀行株式ノ内云々拾貳株之株式吉江直温所持之分代  
金若干圓ニテ今般長尾助信へ賣渡書面之通金額受取渡相濟候處實  
正也云々

賣渡人吉江直温

明治十二年二月十五日

代理 高桑覺二印

買受人長尾助信

代理 某 印

證人 某 印

上告銀行宛

乙第三號

今般吉江直温所有之株券拙者買受候ニ付云々吉江直温ニ御渡相成  
居候金祿公債證書受取書云々直温手前ヨリ追テ取立差出可申候若  
シ右株券受取後直温ヨリ前陳公債受取書ヲ以テ彼是申立候トモ拙  
者ニ於テ相辨申候以上

明治十二年三月

長尾助信印

上告銀行宛

以上ヲ上告人ノ證據書類トス

甲號

請取證

一金若干圓

七朱利付金祿公債證書



右正ニ請取候逐テ株證到來之上此證ト引換可申候也

明治十一年九月三十日

第三百三十三國立銀行

高岡支店扱所 印

總代人 某 印

吉江直温宛

以上ヲ被上告人ノ證據書類トス

本件ハ被上告人<sup>初審原告</sup>ニ於テ其被後見者ナル吉江長松ノ亡父直温

カ曾テ第三百三十三國立銀行<sup>明治十一年創立</sup>同年<sup>合併</sup>ス創立之際株金トシ

テ差入レタル公債證書ノ受取證即チ甲號證ヲ以テ上告人<sup>初審被告</sup>ニ

對シ株券拾貳枚ノ請求ヲ爲スモノナルモ上告人ニ於テハ乙第一號乃至

第三號證ヲ掲ケ該株券ハ曩ニ乙第二號證ノ如ク直温カ豫テ乙第一號

證ノ委任ヲ爲シタル長尾助信ナル者ニ高桑覺ニナル者ヲ代人ト爲シ

其株式ヲ賣渡セシニ付上告人ハ成規ノ如ク其名義ヲ切換ヘ既ニ之ヲ

助信ヘ交附シタルハ今更其請求ニ應シ難キ旨ヲ答辯シタリ然ルニ初

審裁判所ハ本訴ノ爭論ハ直温カ果テ乙第二號證ノ如ク其株式ヲ助信

ヘ賣却シタルヤ否ノ一點ニ在リトシ上告人ハ乙第二號證ノ如ク直温

ニ於テ高桑覺ニチ代人ト爲シ其株式ヲ助信ヘ賣却シタル上ハ今更被

上告人ノ請求ニ應シ難シト抗辯スルモ引合人覺ニカ直温ノ委任ヲ受

ケ乙第二號證ノ如ク取扱タリト云ハ唯口頭ノ陳述ニ止マリ果テ然リ

ト認ム可キノ證左ナケレハ其申分相立タストテ被上告人請求ノ如ク

其株券拾貳枚ヲ引渡スヘキ旨ヲ裁判シ終審裁判所モ亦本訴ハ必竟代

理委任ノ有無ヲ爭フモノナレハ上告人ハ覺ニカ紛失セシ委任狀ヲ發

見シ之ヲ舉示スルニ非サレハ被上告人ニ對シ相爭フノ甲斐ナキモノ

ナリトテ初審ノ裁判ヲ認可シ且ツ但書ヲ以テ上告人ハ長尾助信ノ召

喚ヲ請フモ必要ト認メサレハ採用セスト言渡シタリ依テ上告ノ末大



審院ハ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ  
其理由ニ曰ク本訴原裁判ノ當否ヲ鹽查スルニハ左ノ事項ヲ審明スル  
ヲ以テ足レリトス

一本訴ハ上告銀行株券ノ現所有者ナル長尾助信ヲシテ之ニ參加セシ  
メ裁判ヲ與フルノ必要ナルヤ否ヤノ一  
仍テ之ヲ審案スルニ抑モ本訴ノ顛末タルヤ被上告者ニ於テハ甲號證  
ヲ掲ケ上告銀行ヨリ株券拾貳枚ノ引渡ヲ請求スルニ在リテ上告者ニ  
於テハ右株券拾貳枚ハ乙第一號乃至第三號證ノ如ク被上告者先代ヨ  
リ長尾助信へ賣渡シ既ニ其株券ノ名義ヲ切換へ助信ノ所有スル所ナ  
レハ被上告者ノ請求ニ應スヘキ理由ナシト抗辯スルニ在リ右争點ニ  
付原裁判所ハ上告者ニ於テ被上告者先代カ高桑覺二ヲシテ本訴株券  
賣買ノ事柄ヲ代理セシメタル當時ノ委任狀ヲ舉示スルニ非ラサル限  
リハ上告者ノ抗辯ハ難相立トノ判決ヲ與へ始審裁判所カ被上告者ノ請

求スル株券拾貳枚ハ上告者ヨリ引渡スヘシトノ言渡ヲ認可セリ而シ  
テ本訴ニ長尾助信ヲ參加セシムルハ必要ナラストノ但書ヲ添附セリ  
若シ單ニ上告被上告ノ雙方ニ於テ其株券ノ所有ヲ争フカ如キノ訴件  
ナリシナラハ或ハ相當ノ判決ナル可シト雖モ本訴ハ然ル事狀ナルニ  
非スシテ被上告者ト其所有ヲ争フヘキノ對手人ハ即チ長尾助信ナリ  
左スレハ本訴株券ノ正當ナル所有者ハ被上告者ト長尾助信トノ孰レ  
ニ販着スルカノ確定スルコアラサル以上ハ原裁判ノ如ク株券ノ引渡  
ヲ執行スルニ由ナキモノトス何ントナレハ上告者ハ本訴株券ノ賣買  
ハ被上告者先代ト長尾助信トノ間ニ於テ正當ニ成立タルモノト信認  
シテ既ニ成規ノ如ク名義切換等ノ手續ヲ完了シタレハナリ故ニ斯ル  
場合ニ於テハ其現所有者ナル長尾助信ヲ參加セシメ賣買ノ事實如何ヲ  
審理判定シ然ル上其所有權ハ今尙ホ被上告者ニ存スルカ將タ長尾助  
信ニ移轉セシカヲ裁決スヘキハ本訴ノ要點ナリ然ルニ原裁判所ハ本



訴ニ長尾助信ヲ参加セシムルハ必要ナラサルモノト爲シ單ニ上告者  
カ被上告者先代ノ委任狀ヲ舉示セサルトノ一點ヲ以テ判決ヲ與ヘタ  
ルハ聽斷ノ定規ニ違フタル不法ノ裁判ナリトス

○商品受取方并損害要償之件明治十七年  
第二百九十號

佐賀縣肥前國東松浦郡唐津平民奥村彦五郎代言人高ヨリ  
橋重藏大阪府

南安治川三丁目平民長崎丸船長木戸八十八并大阪府北區古川町

平民長崎丸事務長薄專六代言人古ニ係ル

初審 福岡治安裁判所

終審 福岡始審裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

上告第一號

約定證

一茶名代價云々

合計金百三拾貳圓也

右茶價ヲ以テ本月十八日限リ買受ケ取引ノ約相違無之若シ私ヨリ  
違約ノ節ハ差入タル手附金貳拾圓損毛相成候共決シテ異論申問敷  
云々

明治十六年十月六日

帶谷治平印

上告人宛

上告第二號ノ二

前畧御高許儲宇治茶直段儀過日約定ノ通ニテ引取候哉ノ御書面ニ  
御座候得共最早日限モ相違致此方ニテ賣口ヲ取失ヒ甚タ困却致候  
間只今ニテハ先方ヨリ三割落ナラデハ難受取何分物價日々下落ノ  
場合故右不相成候節ハ兼テ差入タル手附金倍戻シ約定ノ通り請取  
仕度云々

十月廿四日

帶谷治平



本件ハ商事上ノ急訴ニシテ曾テ上告人共ニ審終審カ福岡滯在中馬關ヨリ瀛船長崎丸ニ茶荷ノ廻漕ヲ依托セシニ其船長及ヒ事務長ナル被上告人等共ニ審終審ノ不注意ヨリ着荷ノ延引セシノミナラス航海中其茶櫃ヲ毀損セシヲ以テ上告人ハ延着ノ爲メニ被リシ損害ヲ要償シ且ツ延着ト茶櫃毀損トノ爲メ必ス其香味ノ幾分ヲ失フタルヘシト假定シ被上告人等立會ノ上其損害ヲ檢査シ賠償ノ高ヲ定メサレハ之ヲ受取リ難シト云フニ在ルモ被上告人等ハ之ニ反シ該貨物ハ既ニ問屋ニ引渡シタレハ最早被上告人等ニ於テ其受取方ニ付訟求ヲ受ク可キ筋ナキハ勿論被上告人等ハ船主ノ雇人ナレハ假リニ被上告人等ノ不注意ヨリ上告人ニ損害ヲ與ヘタリトスルモ之ガ責任ハ船主ニ在リ被上告人等ノ負擔スヘキモノニ非スト主張シタリ初審裁判所ハ被上告人等ハ長崎丸船主ノ雇人ナレハ雇主命スル處ノ受任權限内取扱上ヨリ生スル

ル損害ノ賠償ハ雇人ノ關預スル處ニアラス其責任ハ民事擔當者ニ歸ス可キモノナレハ本訴ハ相立タサルモノナリト裁判シタリ終審裁判所ハ其第一條ニ於テ抑船長タル者ハ船主ノ爲メ其船中一般ノ總理タルヲ論テ俟タス而シテ別ニ事務長ヲ置クハ船主又資本主ノ便宜ニ出ルモノニシテ互相ノ分職ハ他ノ辯ス可キ所ニ非サレハ被上告人等ノ共ニ被告トナルハ職務上免カレ難キモノナリトシ其第二條ニ於テ該貨物ノ延着セシハ被上告人等ノ過失ナレハ之レヨリ生スル損害ハ被上告人等ニ於テ負擔セサルヲ得サルモノトシ其第三條ニ於テ上告人ハ帶屋治平ヨリノ書面ヲ掲ケ代價三割ノ損害金三拾五圓ヲ請求スルモ此證據ハ只帶屋治平ト上告人トノ間ニ在テ一般茶價ノ下落ヲ證スルモノニ非サレハ被上告人等ニ對シ要求スルノ原因ト爲スニ足ラサルモノトシ其第四條ニ於テ上告人ハ茶ノ香味ヲ失シ價額ヲ減少セリト云フモ最初何等ノ香味ヲ有セシ茶ナルヤヲ證明スルコト能ハサルモ



ノナレハ今日香味ヲ減少セリト定ム可キ標準ナキヲ以テ此請求ヲ立  
 タサルモノトシ其第五條ニ於テ貨物延着ノ爲メ上告人カ着荷ノ日迄  
 滞在セシ費用ハ被上告人等ノ過失ヨリ生セシモノナレハ被上告人等  
 ニ於テ償フ可キモノトシ上告人ハ此費用金若干圓ヲ受取ノ外要償ス  
 ルノ權利ナキモノト裁判シタリ去レハ上告人ハ初審ニ敗シ終審ノ幾  
 分ニ勝タルモノニテ其不當トシテ上告スルモノハ原判文第三條第四  
 條ノ點ニアリ而シテ被上告人等モ亦タ明治八年第百八十四號公布并  
 同九年第八十二號公布ヲ援引シ其初審ヨリ被告ト爲ル可キ者ニアラ  
 サルヲ并ニ被上告人等ハ大阪定住ノ者ナレハ上告人カ福岡治安裁判  
 所ニ出訴セシハ訴答文例ニ抵觸セシモノニテ同裁判所カ之ヲ受理シ  
 タルハ管轄違ノ裁判ナルヲ論シ又原裁判所カ其判文第一條ニ於テ  
 被上告人等ハ被告ト爲ル可キ責任アル者ナリト豫審ノ判定ヲ下シナ  
 カラ直チニ本案ニ立入り審理ヲモ遂ケス第五條ノ裁判ヲ下セシハ不

法ナリトシ被上告人等カ原裁判所ニ於テ本案ノ答辯ヲ爲セシハ只假  
 設ノ陳述ヲ爲セシマテニテ其主眼ハ本訴ハ起訴當ヲ得サルモノナレ  
 ハ棄却アラソクテ請求セシモノナリト追論シタリ依テ大審院ハ豫審  
 并ニ本案ノ辨明ヲ與ヘ原裁判第三條第四條ヲ不法ノモノト認メ之ヲ  
 破毀シタリ

其理由ニ曰ク第一條 被上告答辯第一項ヲ案スルニ明治八年第百八十  
 四號公布ヲ援引シテ被上告人ハ本诉被告ノ位置ニ立ツ可キ責ナキ旨  
 ナ論スト雖モ却テ該公布ノ旨趣ニ依レハ反對ノ効果ヲ見ルモノトス  
 何トナレハ該公布タル廻漕貨物取扱條例ニシテ其貨主ト船主トノ契  
 約方法及ヒ權義ヲ制定シタルモノナリ故ニ此條例ニ依テ廻漕營業ヲ  
 爲ス者ハ必ラス船主ナラサル可カラズ苟シクモ船主ノ資格ナクシテ  
 同業ヲ營ム者ハ此條例ニ據テ訴權ヲ論スルヲ得サルモノトス今ヤ被  
 上告人ハ本件上告人ノ商品廻漕ヲ受任セシハ如何ナル資格ヲ以テ之



ヲ爲セシヤ絶ヘテ船主ノ資格ハ無カリシト云ハシカ乃チ該條例外ノ者ナレハ本訴ノ起ルニ當テ之ヲ辭スルニ該條例ヲ以テスルヲ得ス將タ多少船主ノ資格ヲ有セシト云ハシカ然ラハ本訴ニ對シテ尙ホ其資格ノ消滅スル謂ハレ無ケレハ何レノ點ヨリ論スルモ被告ノ位置ニ立ツノ責アルコト又言テ竣タサレハナリ抑船長事務長ナル者ニ關スル説ハ原告ハ原文ニ載セテ詳カナレハ則ニ論ノ職務タル船中一切ノ事務ヲ監督シ大小ノ過失ハ擧テ之ヲ擔保スル者ニシテ船主或ハ其特別ナル代理者不在ノ場合ニ於テハ船主代理ノ資格ヲモ亦兼有スル者タルハ條理當然ノコトナリトハ否サレハ誰カ其航行ノ確固ナルヲ信シ貴重ノ生命又ハ貨物ヲ之ニ委託スル者アラシヤ又被告人カ引證トナス明治九年第八十二號公布ハ爾後追加改正等ノ末明治十四年第七十五號ヲ以テ更ニ西洋形船々長運轉手機關手免狀規則公布ノ時ニ廢止セラレタリ而シテ該新規則モ即チ其標題ノ如ク免狀授與等ノ手續及ヒ其職務上不適當ナル者等

罰例ヲ設ケタル者ニシテ民事ノ詞訟ニ關スル廉アルコトナシ故ニ本件ノ如キニ適用ス可キニ非レハ被告ノ論告ハ都テ採用シ難キモノトス

第二條 被告答辯第二項ヲ案スルニ原告人カ福岡治安裁判所ニ於テ本件ヲ起訴セシハ其當ヲ得ス且同裁判所カ之ヲ受理セシハ裁判所管轄ノ權限ヲ越ヘタルモノトシ被告人ハ大坂定住ノ者ナレハ大坂府下ニ在ル法衙ヲ以テ其管轄トスル旨論難スト雖モ是レ其起訴アリシ際初頭ニ申立得ヘキ故障ナルモ既ニ異議ナク始終審ノ裁判ヲ受ケタル上ハ今更之ヲ破毀スルノ理由ト爲シ得ヘキコアラヌ況ンヤ本件ノ如キハ商品廻達ノ地則チ被告人寄泊ノ地ニ於テ急速ヲ要スル事柄ナレハ條理上其地所在ノ裁判所ニ其處分ヲ仰クハ當然ノコトナルノミナラス訴答文例ニ觸ル、處ナキニ於テチヤ

第三條 上告第一條ヲ案スルニ原告人ハ始審以來本件茶櫃ヲ被告

上ノ其ノ下處列  
ノ二字ヲ脫ス



人立會ノ上検査シ損害ノ多寡ヲ定メ要償スルノ訴旨ナルコトハ原裁判書類ニ徴シ詳ラカナル處ニシテ就中明治十七年二月廿一日原裁判所ニ於テ上告人間答書末項ニ「茶ノ香味ヲ何程失ヒタルヤ否ヤモ茶櫃ヲ開キ検査セサレハ不分明ナルニヨリ隨テ要償ノ額モ未定ナレト云々トアルヲ見レハ其主意倍瞭然タリ然レハ兩造立會ノ上該茶櫃ヲ開キ検査セントノコトハ最モ緊要ノ争點ナリ何トナレハ上告人ハ此訴意ヲ遂ケサレハ損害ノ金額ヲ定ムルコト能ハサル勿論ナレハナリ然ルニ原裁判所ハ此點ニ對シ豫審ノ處分ヲ爲サズ未タ之カ立證ノ機會ニ至ラサルニモ拘ハラズ原判文第四條ニ控訴人以上告人以下告人ニ於テ茶ノ香味ヲ失シ價額減少セリト陳辯スレト云々今日ニ於テ香味減少セリト定ムルニ標準ナキモノナレハ此請求ハ相立スト漫然タル言渡ヲナシ被上告ニ該立會ノ責任アルヤ否ヲ全ク不問ニ措キシハ判示ス可キ一要點ヲ脱漏セシ不法ノ裁判ナリトス

第四條 上告第二條ヲ案シ之ヲ原判文ニ照スニ其第三條ニ「控訴人ニ於テ帶谷治平ヨリノ書面ヲ呈出シ代價三割ノ損害金三拾五圓請求スト雖右ノ證據ハ帶谷治平ト控訴人トノ間ノミニ在テ一般茶價下落セシ證ニアラサレハ之レヲ以テ被控訴人ニ對シ要求スヘキ原因ト爲スニ足ラス」トアリ然ルニ明治十七年二月廿三日上告人原裁判所口供追伸ニ「當地ニテハ茶一般ノ相場ハ極マリナシ又相場所モ相立チ不申候也」トアレハ之カ一般ノ定價ハ知ルニ由ナキモノ、如シ勿論諸商品ニハ自カラ相當ノ價格アル可ケレハ斯ノ如キ場合ニ於テ一ノ價位ヲ表明スル者アル時之ヲ不相當トスル反證ナキ限リハ其價位ヲ採用シテ妨ケ無キハ條理適當ノ事ナリトス既ニ本件ノ如キハ上告第二號證ノ二即チ帶谷治平ヨリ上告人宛ノ書面及ヒ上告第一號證賣買契約代價記載ノ書面ヲ上告人ヨリ呈供セシ上ハ其正否ヲ審究シ果シテ不當ナコトナク被上告人モ反證ヲ舉ケテ之ヲ駁撃シ得サルニ於テハ素ヨリ

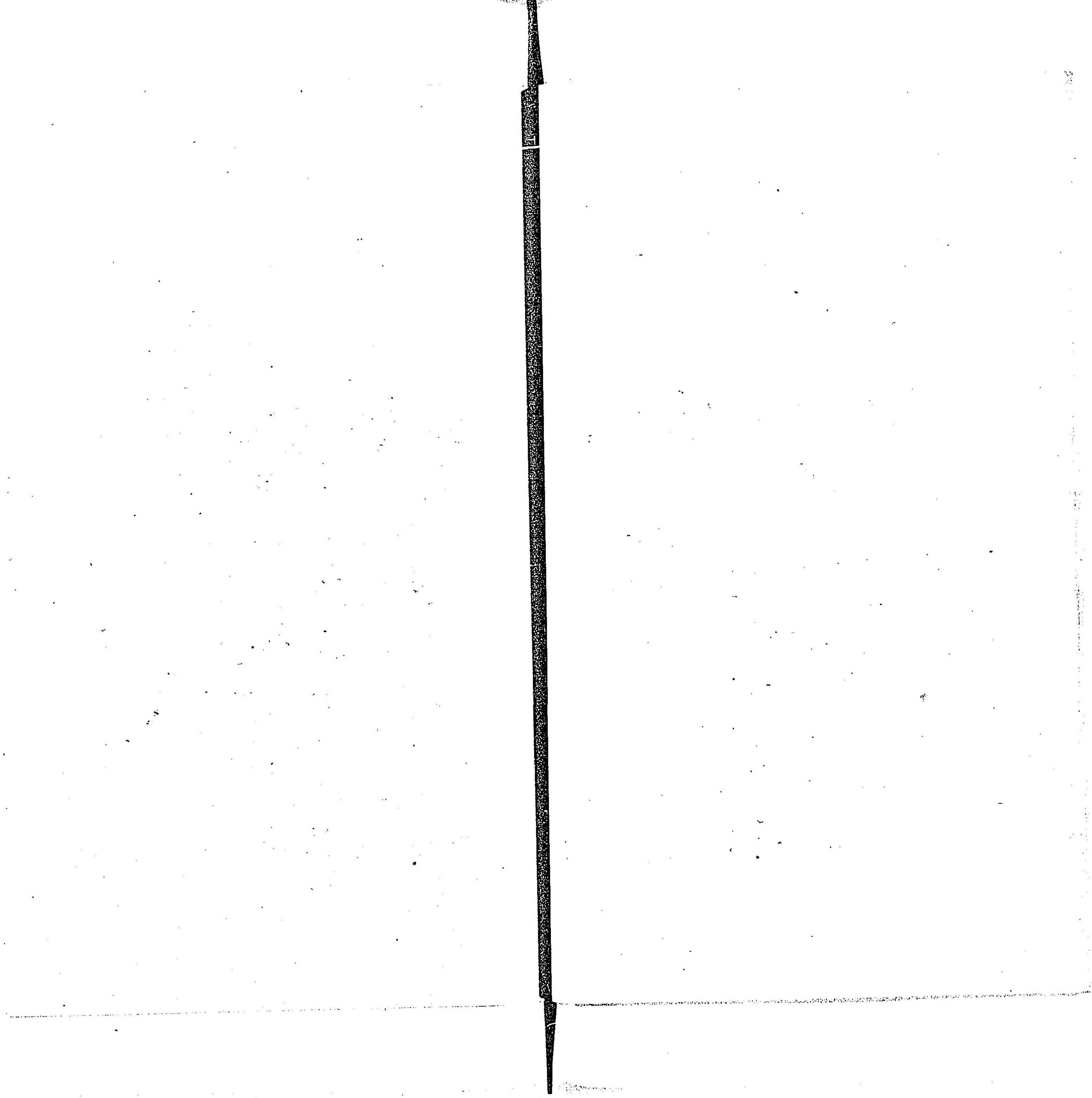


之ヲ排斥スル筋ナキモノナルニ原裁判所ノ注意茲ニ及ハス斯ル言渡  
ヲ爲セシハ條理不當ナル不法ノ裁判ナリトス  
第五條 被上告人ハ原判文第五條ニ對シ追論スル處アリト雖モ既ニ  
假設ニモセヨ原裁判所ニ於テ本案ニ立入り答辯シタル上審判ニ及ヒ  
タル者ナルハ原書類ニ徴シテ分明ナレハ全ク破毀ノ理由ナキモノニ  
シテ被上告人ハ審ニ苦情ヲ陳フルニ過キサルモノトス

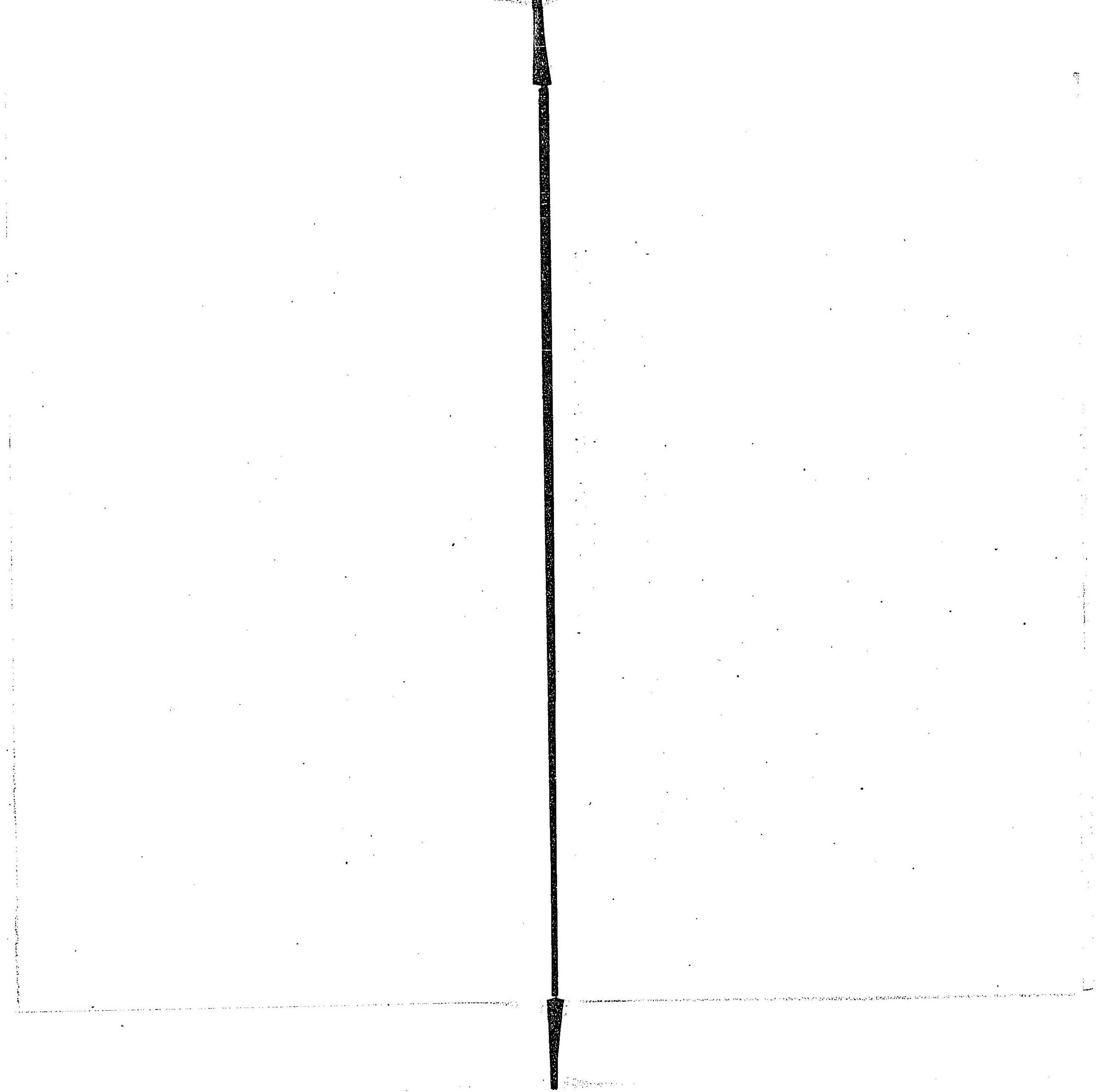
明治二十一年七月十四日出版

司 法 省

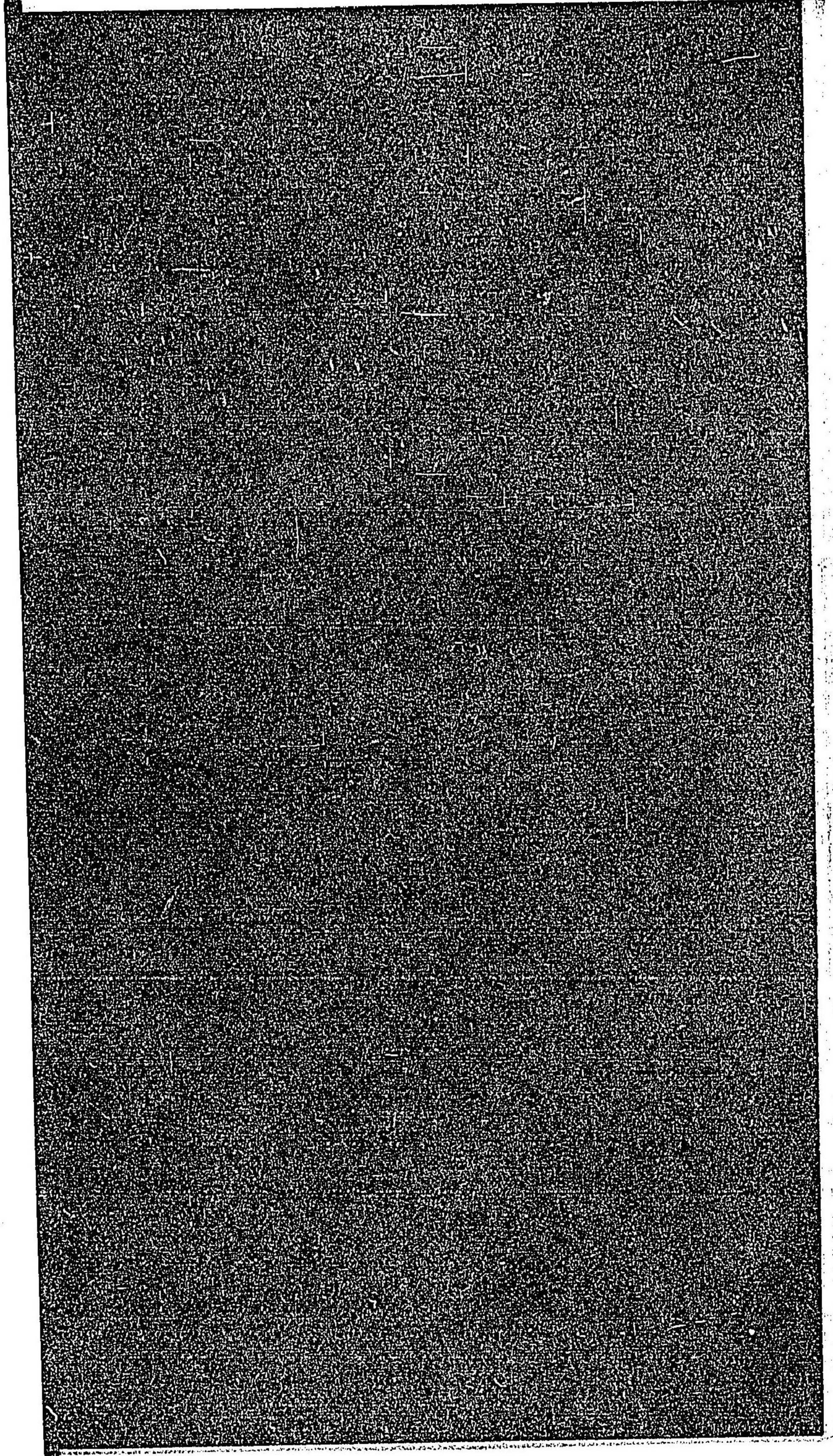














CZ  
2811  
10

036565-001-9

CZ-2811-10

大審院民事商事判決録

司法省

M21-23

BBR-0604

